

資料2

自治体等公的機関の提供する 医療情報について (医師対象)

資料2-1 アンケート内容と単純集計結果

資料2-2 自由コメント

資料2-3 勤務形態別によるクロス集計結果

資料2-1 アンケート内容と単純集計結果

回答者人数 344名

《回答者のプロフィール》

回答者の平均年齢 43.3歳

1 男性の平均年齢	43.5歳	3 開業医の平均年齢	45.5歳
2 女性の平均年齢	39.4歳	4 勤務医の平均年齢	42.6歳

回答者の年代別構成

・20代	2名	0.6%	・50代	45名	13.1%
・30代	99名	28.8%	・60代	6名	1.7%
・40代	191名	55.5%	・70才以上	1名	0.3%

回答者の性別

1 男	327名	95.1%	2 女	17名	4.9%
-----	------	-------	-----	-----	------

勤務の形態

1 開業医	70名	20.3%	3 その他	6名	1.7%
2 勤務医	268名	77.9%			

居住している都道府県名

1 北海道	40名	11.6%	9 新潟	11名	3.2%
2 岩手	8名	2.3%	10 福井	5名	1.5%
3 千葉	12名	3.5%	11 京都	28名	8.1%
4 東京	62名	18.0%	12 大阪	28名	8.1%
5 神奈川	30名	8.7%	13 兵庫	23名	6.7%
6 静岡	11名	3.2%	14 岡山	10名	2.9%
7 愛知	36名	10.5%	15 愛媛	6名	1.7%
8 長野	14名	4.1%	16 福岡	20名	5.8%

質問と回答

問1 医学情報の入手や業務などで、インターネットをどのくらいの頻度で利用されていますか？

・ほとんど毎日	67.2%	・1年に1～数回	0.0%
・1週間に1度以上	28.2%	・利用していない	0.0%
・1カ月に1～3回	4.7%		

問2 普段、最もよく利用する検索エンジンをあげてください。(一つだけ選んでください)

・Yahoo!	55.5%	・Infoseek	2.6%
・Goo	2.3%	・MSN	10.2%
・LYCOS	1.2%	・Netscape	2.9%
・Google	23.3%	・不明	0.3%

・その他(1.7%)

CareNet
Excite
Pubmed

q2_free
UP TO DATE

問3 都道府県または市町村の自治体のサイトへアクセスする(URLを探す)方法をご存知ですか?

- | | | | |
|-------------------|-------|---------------------|------|
| ・知っている | 39.8% | ・どのようにして探せばいいかわからない | 2.0% |
| ・(検索などで)探せばわかると思う | 57.8% | ・不明 | 0.3% |

問4 都道府県または市町村の自治体のサイトにアクセスしたことがありますか?

- | | | | |
|--------------|-------|--------------|-------|
| ・アクセスしたことがある | 69.2% | ・アクセスしたことがない | 30.8% |
|--------------|-------|--------------|-------|

上記で、「アクセスしたことがない」とされた方は、問6へ移ってください。

上記で、「アクセスしたことがある」とされた方へ

問5 その時、医療機関に関する情報が案内されていたかどうか覚えていますか?

「アクセスしたことがある」と回答した344名中、

- | | | | |
|----------------|-------|-------------|-------|
| ・案内されていたと思う | 49.6% | ・どちらか覚えていない | 34.0% |
| ・案内されていなかったと思う | 14.3% | ・不明 | 2.1% |

以下の質問では、仮に自分自身または家族が病気になった時に、インターネットで近くの医療機関を探したい・・・という状況を想定してください。この想定で、あなたが居住される都道府県または市町村の自治体のサイトを探してください。アクセスができれば、利用することのできる情報をいろいろ閲覧してください。(コンテンツの量によりますので、閲覧する時間は指定しません)

その後から、以下の質問にお答えください。

なお、以下、問14までの質問は、医療提供者の立場でなく、ご自分や家族が病気になったと仮定して患者・家族の立場でご回答ください。

問6 あなたが居住する都道府県または市町村の自治体のサイトにアクセスできましたか?

(上の説明を必ずお読みください)

- | | | | |
|-------------------|-------|---------|-------|
| ・すぐに(3分以内)アクセスできた | 76.7% | ・できなかった | 14.5% |
| ・3分以上かかったがアクセスできた | 6.7% | ・不明 | 2.0% |

上記で、「できなかった」とされた方は、問15へ移ってください。

上記で、「アクセスできた」とされた方へ

問7 アクセスされた自治体のサイトの名前とURLを記載してください。

例：青森県ホームページ <http://www.pref.aomori.jp/>

- ・サイト名
- ・URL <http://>

問8 上記のサイトにアクセスして、医療機関に関する情報を何か確認できましたか?

「アクセスできた」と回答した287名中、

- | | | | |
|-----------|-------|-----|------|
| ・確認できた | 84.0% | ・不明 | 2.1% |
| ・確認できなかった | 13.9% | | |

上記で、「確認できなかった」とされた方は、問15へ移ってください。

上記で、「確認できた」とされた方へ

問9 どのような情報が確認できましたか?(いくつでも選んでください)

「確認できた」と回答した241名中、

- | | | | |
|-----------|-------|--------------|-------|
| ・病院に関する情報 | 74.7% | ・一般診療所に関する情報 | 34.4% |
|-----------|-------|--------------|-------|

・救命・救急に関する情報	48.1%	・緊急性の病気(O-157等)に関する情報	14.1%
・休日・夜間診療に関する情報	65.6%	・病気予防、健康管理等保健に関する情報	35.7%
・医師に関する情報	8.3%	・不明	1.7%
・感染症、難病等に関する情報	22.8%		
・その他(2.1%)			
医師会へのリンク、ここから医療情報は G E T 確認できたが、他のサイトに飛んでから検索をしなければいけないので、面倒であった 救急車を呼ぶときは		健康相談 / 医療相談 心のケア 人間ドック、検診、予防接種、妊婦、保健所 予防接種にかんする情報	

問10 全体的に情報へのアクセスは容易でしたか?

・かなり容易であった	56.8%	・まったく容易でなかった	0.4%
・やや容易であった	35.7%	・どちらとも言えない	1.7%
・あまり容易でなかった	5.4%		

上記で、「かなり容易であった」「やや容易であった」「どちらとも言えない」と回答された方は、問14へ移ってください。

上記で、「あまり容易でなかった」「まったく容易でなかった」と回答された方へ

問11 その理由は?(いくつでも選んでください)

「あまり容易でなかった」「まったく容易でなかった」と回答した14名中、

・トップページからの案内がわかりにくい	71.4%	・目的の情報へたどりつくページの移動(マウスのクリック)が多すぎる	21.4%
・リンクのボタンが多すぎる	7.1%	・元のページへ戻れず迷子になった	0.0%
・デザインにまとまりがなく情報が探しにくい	14.3%	・検索機能が複雑すぎる	7.1%
・1ページの情報量が多すぎる	28.6%	・不明	14.3%
・その他(7.1%)			
基本的に、医療機関の情報がない。(たまたまリンクをたどっただけ) 検索機能が p o o r で不親切		町名を 3 つ選択しなければならず、狭い範囲のことしかわからない。	

問12 文字、デザイン、画面のレイアウト等の情報の提供方法は適切でしたか?

・適切であった	70.5%	・どちらとも言えない	22.4%
・適切でなかった	7.1%		

上記で、「適切であった」「どちらとも言えない」と回答された方は、問16へ移ってください。

上記で、「適切でなかった」と回答された方へ

問13 その理由は?(いくつでも選んでください)

「適切でなかった」と回答した17名中、

・文字が見にくい	23.5%	・ページごとの統一性がない	23.5%
・デザインが優れない	47.1%	・情報がよく整理されていない	82.4%
・画面のレイアウトが見にくい	52.9%	・不明	0.0%
・その他(11.8%)			
重い(表示が遅い)Flashなど使う必要無いのに、情報が古かった		必要なことは全部PDF書類をダウンロードしなくてはならず見にくい。	

問14 提供される情報の内容は十分でしたか？

問14 - 1 病院に関する情報

・十分であった	33.6%	・どちらとも言えない	25.3%
・不足であった	40.2%	・不明	0.8%

問14 - 2 一般診療所に関する情報

・十分であった	15.8%	・どちらとも言えない	23.2%
・不足であった	58.5%	・不明	2.5%

問14 - 3 歯科診療所に関する情報

・十分であった	11.2%	・どちらとも言えない	27.8%
・不足であった	56.0%	・不明	5.0%

問14 - 4 救命・救急に関する情報

・十分であった	32.8%	・どちらとも言えない	25.7%
・不足であった	38.2%	・不明	3.3%

問14 - 5 休日・夜間診療に関する情報

・十分であった	44.0%	・どちらとも言えない	21.6%
・不足であった	32.8%	・不明	1.7%

問14 - 6 医師に関する情報

・十分であった	5.0%	・どちらとも言えない	22.4%
・不足であった	68.5%	・不明	4.1%

問14 - 7 感染症、難病等に関する情報

・十分であった	17.0%	・どちらとも言えない	24.9%
・不足であった	53.9%	・不明	4.1%

問14 - 8 緊急性の病気(O-157等)に関する情報

・十分であった	10.8%	・どちらとも言えない	29.0%
・不足であった	56.8%	・不明	3.3%

問14 - 9 病気予防、健康管理等保健に関する情報

・十分であった	23.7%	・どちらとも言えない	30.3%
・不足であった	43.2%	・不明	2.9%

問15 今後、都道府県または市町村の自治体がインターネット上で提供を充実していくべきだと思われる情報をあげてください。(いくつでも選んでください)

・病院の名称・所在地、電話等に関する情報	78.5%	・病床数、入院に関する情報	28.5%
・一般診療所の名称・所在地、電話等に関する情報	64.5%	・医療設備に関する情報	44.2%
・歯科診療所の名称・所在地、電話等に関する情報	53.5%	・検診・予防接種に関する情報	52.6%
・診療科目に関する情報	70.1%	・疾患別の治療法に関する情報	29.9%
・診療時間に関する情報	65.4%	・その病院でできる手術の種類に関する情報	34.6%
・救命・救急に関する情報	76.7%	・医師に関する情報	43.9%
・休日・夜間診療に関する情報	84.0%	・専門医、認定医などの資格に関する情報	45.9%

・医療機関、疾患別の平均在院日数 (患者が病院に入院している平均 日数)に関する情報	13.4%	・一般の病気に関する情報	31.1%
・医療機関、疾患別の平均治療費に 関する情報	17.2%	・感染症、難病等に関する情報	37.2%
・医療機関別、疾患別の治癒率に関 する情報	19.2%	・緊急性の病気(O-157等)に関する 情報	41.0%
・医療機関別、疾患別の死亡率に関 する情報	17.2%	・病気予防、健康管理等保健に関す る情報	39.8%
・その他(2.3%)		・各病院のウェブサイトへのリンク	39.2%
リアルタイムに今現在の情報が欲しい 医師の診療科は記載があるが、得意分野・専門 がわからない 代替医療に関する情報 医師会が提供していることを明示すべき 介護の情報		各病院の独自発行している雑誌の内容をPDF ファイル形式で 治療費の額 自治体が提供する必要は乏しい 診療所の紹介は、医師会のHPで良いと思う 代替医療をしている医院を知りたい。	

問16 病気の治癒率、患者の死亡率等の結果に関する情報(いわゆるアウトカム情報)の公開についてうかがいます。(一つだけ選んでください)

・アウトカム情報は、客観的に比較可能なデータを提供する方法が整えば公開すべきである。	47.4%
・アウトカム情報は、客観的に比較可能なデータを提供する方法が整っても、患者・国民が理解するのは難しいので公開すべきでない。	12.8%
・アウトカム情報は、客観的に比較可能なデータを提供する方法が整っても、利用の仕方によって問題が生じやすいので、公開すべきでない。	30.8%
・よくわからない	8.7%
・不明	0.3%

上記で、「公開すべきでない」「よくわからない」と回答された方は、最後の問22へ移ってください。

上記で、「公開すべきである」とされた方へ

問17 病気の治癒率、患者死亡率等のアウトカム情報の公開は何に役立つと思いますか?重要だと思われるものを二つまで選んでください。

「公開すべきである」と回答した163名中、

・病院や医師の選択に役立つ。	66.3%	・各地域の疾患の傾向や医療政策の効果 がわかる。	14.7%
・病院の医療機能の向上に役立つ。	58.3%	・患者・国民の医療への関心を高めるの に役立つ。	27.6%
・医師の技術の向上に役立つ。	32.5%	・よくわからない	0.0%
・医療ミスや医療事故の防止に役立つ。	28.2%	・不明	6.1%
・診断・治療法の科学的根拠となる情報の データベースづくりに役立つ。	30.1%		
・その他(0.6%)		患者が治療を選択するのに役立つ	

問18 病気の治癒率、患者死亡率等のアウトカム情報は、どこが提供するのが一番適切だと思いますか?(一つだけ選んでください)

「公開すべきである」と回答した163名中、

・国または国に準ずる機関	31.9%	・大学病院、公的な研究機関	2.5%
・都道府県の自治体	9.8%	・医療機関自身	12.3%
・市町村の自治体	3.7%	・医師会	3.1%
・保健所	7.4%	・病院団体	0.0%

・大学病院、公的な研究機関	2.5%	・健康保険組合等保険者	0.6%
・医療機関自身	12.3%	・製薬メーカー	0.0%
・医師会	3.1%	・NPO等の第三者機関	16.6%
・病院団体	0.0%	・民間の医療情報提供会社	1.8%
・医学会	5.5%	・患者(個人または団体)	0.0%
・薬剤師会	0.0%	・よくわからない	3.7%
・その他(1.2%)			
県立病院		複数で出すべき	
医師、患者、行政からなる外部評価機構			

問19 そう思われる理由をお書きください。(200字以内)

・「国または国に準ずる機関」を選んだ理由

公的な機関であることが前提で、国家プロジェクトとして、早急に整備すべきと常に考えています。しかし、公平な判断基準の制定も非常に重要です。データは比較され、その結果が直接患者の病院選択と関連する可能性が強いのでかなり慎重に、また嘘の報告などは厳重に処罰されなければならないと思うので。公平さが大切だから。客観性をもった意見が必要。強制力のない機関では正確な情報収集はできない。虚偽があった場合にはペナルティを与えるくらいしないと実現は不可能だと思う。全国の比較が知りたい。医療情報の開示についてはやはり国が責任をもって対応すべきだと思うから。公的な機関が私見を交えずにデータを公表するのが、偏りがなさそう。公平性が高いから。公的機関が行うことによりデータの信頼性が増す。信憑性の監視。発表方法・項目などに地域差が出ることは望ましくない。公正な立場で判断できると考えられるから。公平性。より客観性があるから。情報によっては大きな影響を与えるものもあり、上の立場の機関の方がよいと思う。きちんとしないと意味がない。公平な立場のほうが良い。国などの大きな公共機関による適切な情報公開は全国規模の医療機関の競争を促進し、ひいては医療技術の更新や、医療費の低下にもつながるかも知れないから。全国的に客観的に評価できる尺度を作成する必要があるから。情報提供に対して責任を負える機関がすべき。公正さが失われる。総括的で比較的偏りが無い

より客観的な情報でなければ意味がないから。公平な評価は第三者で可能かどうか保障がない。公平性が保たれるから。基準をはっきりさせるため。民間の医療情報提供会社や病院が独自に情報を提供しても(既に行われている)、情報の質や信頼度に関する統一基準が無いため混乱を招いている。厚生労働省が一定の基準を設けた上で、なおかつ大胆に情報を公開すべきである。まず利害関係の生ずる団体は不可。公的機関が学会が迷うところですが、多数の情報を集めるには国がいいでしょう。国以外ではデータ収集が困難。客観性を保つには公的機関がやる必要がある。重症患者を取り扱わないなどの負のインセンティブを避けるためには、日本全体としてのレベルを基に重症度等を標準化する必要がある。全国同一基準で比較しやすい。国が健康保険制度を運営している以上、そうすべきである。公平性を保つため。公正な判断基準の作成と公的なbackgroundが必要と考えられる。多少ともより公平な評価を期待するため。厚生労働省あたりが適当。提供者は一元化され公平であるべき。全国共通の情報提供が可能だから。客観性が必要だから。絶対的な客観性を必要とするから。情報量は医師会が多いと思われるが、公明正大な評価を与える機関としては国しかないと思う。全国で統一した基準が必要と思われるから。地域ごとに評価基準、評価方法が違っていると分かりにくい。責任が伴うため。公平な評価を下す必要がある。医療水準や地域差など全てを統合した上である程度の数がないとデータの信頼性に問題があるから。また調査機関による偏りをなくす必要もあるから。

- ・「都道府県の自治体」を選んだ理由

公平性がある程度維持される必要があるため。
 国では、厚生省の力が強すぎて事実が捻じ曲げられる可能性が高いので
 もっとも情報的的確に収集しまとめる機能が充実している。
 病院を評価するのに、適した単位と思われる。(国では大きすぎ、市町村では狭すぎる)
 医師会等の団体が提供した場合、客観性が担保されない。
 情報が集まりやすく、客観性を確保しやすい

地域性にそって融通が利く 公正な判断を期待できる点
 公正な情報を提供できると思うので
 地元で、かつ公正な立場を考えると、県がよい。
 普段から届け出などでよく利用するから
 だれでも、ちえくできるから
 客観的評価は他者でないと困難だと思う。他との対比も必要だと思うし、そうなるとある一定以上の自治体の規模が必要だと思います。
 県内地域の医療を管轄する自治体であるから
- ・「市町村の自治体」を選んだ理由

身近な自治体が細部まで評価できる 病院独自の評価では不可。
 実態がわかっているから
 公平な公表が可能と考える。デ-タの改ざんなどの可能性が最小限になる

官民の連携がとりやすい
 公平にするため
 公平性を保つため
- ・「保健所」を選んだ理由

保健所の機能と能力を向上させ、保健所軽視の状況を改善する機会とする
 保健所が医療についての情報が客観的にみえてあるから。
 「身内」と思われず公平感がある
 最も中立な立場にありそうだから。
 そのようなサービスをすべき機関とおもう
 最も、公正な判断が可能と思われる。
 厚生労働省の出先機関と考えられる。近頃保険所の役目が低下しているがまさに最も重要な仕事では

なかろうか。この仕事を別の新しい機関に請け負わせるというような無駄は是非辞めていただきたい。
 時代の趨勢だから。
 公平である
 病院間で格差がある。専門の看板を掲げた病院でも専門医がいない病院もあるので、保健所等が中心になって病院の情報を公開すべきである。
 病院・診療所等を統括する公的機関が客観的に行うのがよいと思う。
 公平に情報を取り扱える機関だと思われるから。
- ・「大学病院、公的な研究機関」を選んだ理由

判定は疾患に対して最高の治療が可能と思うところが、他の機関の治療成績をあげるよう指導する形で行うのがよいと思います。
 国の情報はトピックスから遅れやすい、大学個別の違いがあってもよい

大学病院等のレベルの施設でないと、全国の数多い病院の多くのレベルの医療行為を公平な観点から評価するのが難しいから。
 専門領域につき、それ相応に専門知識を理解している立場の第三者機関がおこなうべき。
- ・「医療機関自身」を選んだ理由

これからは、市場原理が医療界にも導入され、より競争原理が生じる時代になるから。
 的確なデータが開示できる
 医療機関自身の義務であると考え
 公開性透明性が重要である
 他の団体がやったとしても客観性のあるデータとは思えないので
 患者さんの病院選びというニーズのために医療機関がすべき。
 常にアップデートできるし、自覚が促される

統計処理は統一性に欠けるため、医療機関が出した情報に対して、公的機関がお墨付きをつけるのは如何なものか。
 データが出しやすい
 これからは医療費の抑制や削減が重要な課題であり、患者サイドから医療機関を選択するときにアウトカム情報は重要な選択基準となってくることが予想される。
 第三者機関のチェックの上に、医療機関自身が公開するのがよい。

自己申告が重要。他からの批判が必要。申告内容は全て他の機関で評価される必要がある。
基本的に個人情報に基づいたものなので、医療機

関がみずからの責任において公表すべきであり、内部監査によってその正当性が評価されるべき。

・「医師会」を選んだ理由

専門知識を有し、かつ公平な立場をとりうる
役所の仕事はいいかげんだから
内容の正確性、公平性、アップデートなこと、が最低
限必要だが、それが常に更新され統一した見識とサ
ーベイにより、医療行政にフィードバックされなけれ

ばならない。そのためには国又はそれに準ずる機関
との密接な連携が必要である。
一般向けに洗練された情報が提供されるべきで、事
実であっても解決方法の明確でない様ないたずらに
不安を惹起する情報は公開すべきではないため。

・「病院団体」を選んだ理由

公平性、透明性が保たれるから

・「医学会」を選んだ理由

一番専門的かつ客観的であると考えられるから
専門集団でなければ、重症度などの異なる集団の成
績の判断は不可能。
情報の対象性のため。医療機関の選別のため。
学会活動をみればおのずと活発な医療機関かどう
かがわかる その一方で 患者自身からの情報も必要
不可欠だとは思いますが、

比較的公正な立場で情報を公開できる。必要な知
識もある。
それぞれの疾患の専門的情報を有しているから
国や医師会ではまとまりがないと思われ、自治体では
専門的知識を有する人材がいないので、専門の医
学会が客観的に評価するのが適当と思う。

・「薬剤師会」を選んだ理由

なし

・「製薬メーカー」を選んだ理由

なし

・「NPO等の第三者機関」を選んだ理由

何よりも中立性が保たれる必要があるから。
情報の収集、提供、管理には多額の費用と責任、情
熱が必要で、本来、国や自治体がすればよいが、そ
のような費用の余裕が税収等考えると無いから。
直接治療医療にかかわらない団体客観的に判断が
出来る。
ただでさえ利権の絡む事柄なので、第三者機関でな
ければ客観的に評価はできない。
外圧のかからない第三者機関がベスト
利権がからまない
より客観的で信頼性のある情報提供のできる、独立
した機関であることが望ましいから。
国立、公立、私立にかかわらず設置者が関与してい
ない機関がする方がよい
現在、国はいろいろと改革をしているようだが、すべ
て医療費を抑えるためのことだけで医療をよくする
気は無いように見える。せめて第三者の方が政策の
しらがみが無くなる。

利害関係の無い機関が取り組まないといいかげん
になる
客観的に比較可能なデータを提供するためには第
三者機関の存在が必要と考えます。
直接利害関係がない機関が行うべきである。しかし、
専門性の問題もあり公平な評価は難しいのではない
か。公正さを保つために
官僚機構よりNPOの方が客観的なデータが出せる。
官僚の天下り組織にしない為にNPOを活用したい
この問題で「公平中立」は難しいとは思いますが、
基本姿勢として、どの立場からも中立な組織が情報
提供すべきと思うから
各医療機関のアウトカム情報をそこそこ客観的に広
く評価できると考えるから。
国は無理でしょう。一番客観的なのは。
客観性を保ちたい
中立な立場を守る事が可能な機関として現状の行
政でも現場の医療機関でも信頼感に欠けるため。

判定基準は単一でない。判定している側の判断基準を明確に示すべきである。こういう見方もできるという意思表示。判定者の責任を明確にするため。医療者には医療者の判定が、受益者には受益者の判定が独立にありうと思うから。

中立、公正な立場であると思われるので病院の設立機関(民間、国公立)とは全く別個の第三者組織によるべきだから
実際はアウトカムの公正な比較は困難だと思います。

・「民間の医療情報提供会社」を選んだ理由

biasがかからない
バイアスがかからないためには、患者サイドの評価が重要。民間以外の団体は必ずバイアスがつきまとう。

しかし各病院が公表できるよう院内を整えていくことが医療の質の向上につながると思います。

基準を決めるのが難しく、基準を公開する必要がある。地域に密着した第三者機関のみが、片寄りのない情報を発信できると考えるから。

客観的な判断が下せそうだから。

官は患者が知りたいことを出さないのが常、医療機関側は当然自分たちに都合の悪いことは載せないはずである。だから第三者機関がベスト

客観的に評価してくれそうだから

・「患者(個人または団体)」を選んだ理由

なし

・「よくわからない」とした理由

必要だとは思うがどのレベルで管理すべきかわからない。

かたよりなく、公正な情報を提供するの、どの機関がやってもむづかしいのではないか。

アウトカムの提供の仕方は非常に難しく簡単な症例だけに手術をしていれば成績はいいし成績だけが一人歩きしだすとこの施設も困難な症例には手を出さなくなる

・「その他」の理由

(「県立病院」とした理由)地元住民に一番信頼があるのは県立病院で、データも纏めやすいし、公表しやすいから。

(「医師、患者、行政からなる外部評価機構」とした理由)公平性が保たれる

問20 その他、医療機関に関する情報の提供に関して、ご意見を自由にお書きください。(400字以内)

資料2-2に全文掲載

資料2-2 自由コメント

日々、努力を惜まず研鑽を積んでいる人々が報われるような制度の確立が必要である。情報の垂れ流しは混乱を招きます。

情報提供は真面目な個人が必要とする理由になっとくすれば、医療機関自体が個人に公開すれば良いと思う。

敷居の低さと守備範囲が判れば十分と思いますが、それぞれの施設で独自に治療成績を出すことは非常に重要であると思うが、インターネットのように公開するだけで見る人に正確に理解されたか否か解らない状況では、危険性もあり、まだ十分検討の余地があると思う。ただ、独自の特徴など宣伝できることは良いことだと思う。

患者側の知りたい情報と、医療側の公開できる情報との差があるので、一気に公開するとどちらも対応できないので、徐々に情報公開していく。

患者の投書も公開すべき

医療機関に関する情報の提供に関して、これまであまり関心をもってこなかったが、自治体のホームページなどできちんとやってくれるのなら、もっと利用することもあるかもしれない。

医師の力量については、外科系などの技量を問われる科においては認定医制度が必須であるが、内科系はむしろ出身大学が判断基準になりうると思います。実際に患者様を診察している立場として 疾患やその治癒率 死亡率に関する知識にはかなり大きな個人差があり その理解度もかなり大きな個人差が見られる この現状で後悔することは 数字だけが一人歩きする危険性が高い 例えば救急でどんな患者でも受け入れる病院は死亡率の高い病院であるという印象になってしまう危険性がある。

自治体の関与ならば、客観性、公正さをいかに保つかが困難であろう。単なるいりかげんな宣伝は混乱する。

第三者機関による評価を公平に行い、開示できることが理想と考える

一般の患者さんに分かり易い表現での情報提供がより必要だと考える。

瞬時にいつでも時間関係なく、24時間ホットな情報が得られるべきである。

ゴルフ場の予約のサイトのように、場所、時間、疾患、症状、診療科等を入力すると医療機関の情報が出力されるサイトがあれば望ましい。診療の質が良いか患者さんが照会して喜ばれるか、医療従事者が近隣の医療機関の真の情報を常に収集するのも困難であるのに、本当に役に立つ情報が公の機関や民間団体に出来るわけが無いし、そのようなサイトや

書籍も見たことが無い。日本の名医100人等の書籍も、医療関係者やその同僚等内実を知る人からの情報等との乖離が激しいのはよく経験する。したがって、無駄にお金を使って変な情報を配信するより、診療時間等、誰でも判断できる情報だけ配信すればよい。

アウトカムは第三者が公正に評価できる状態でなければ、都合の良いように操作可能であるため、現時点では、単なる宣伝になると思う。

医師の力量がわからず、建物で評価するような現実を改めたい。「大きな病院がよい病院」という錯覚が蔓延しているような印象です。

今のところインターネットで得られる情報は限られている。まだ医療期間を選ぶ理由として、口コミや近所の評判が大きいと思う。

地方では都会と違い、口コミの情報が大きいと思う。在院日数に関しても（特に高齢者の場合）退院を勧めても家族の受け入れが困難な事が多い 特にホームなどに入所していた場合、自治体が医療機関のホームページを監視する方が現実的ではないか

不必要な規制があったり、逆にあいまいであったり適切な情報は得にくい

このアウトカム情報が安易に公開されると、手術について言えば、合併疾患の厳しい患者さんや御高齢者への手術が敬遠されるなどの問題点が大きいとおもいます。設問の比較可能なデータとありますが個々の患者様の術前の状態比較も含めた検討はなされがたく、安直な手術成績の比較で話がおっしゃってしまうことを懸念申します。

情報の提供側の情報の質の問題もあるので、閉鎖性のある病院の内部に第三者が入り自由に情報を集められるような仕組みを作らないと、集まる情報自体信頼性が薄れてしまう。

症例のかたよりや、すみわけが進んでいくと思われるので、データの公開には、内容を充分検討する必要がありますと考える。

医師の経歴、技量に関する情報が欲しい。

公開してよいものと、だめなものの意見を統一することが重要である。

患者の意見を反映させるとの意見が最近多いが客観性に欠けるので、避けるべきであると考え。

医療機関に関する情報は客観的(所在地、電話番号、救急医療等)なものに限り、医療機関の評価はすべきではない。

公開は大切だ。しかし人はそれほど賢くない。人民も医者も。

やはり実際に受診してみないとわからないことも多く、参考程度にすることが望ましいのでは。特にアウトカム情報については技術が優れていても重症患者を積極的に診れば診るほどデ・タ上は数値が悪くなる可能性もあり、患者のえり好みにつながるので慎重にすべきだ。

ともすれば宣伝・誘導につながりかねない詳細な診療情報は公的機関がPRすべきものではない。

医療機関は、医療に関する情報をできるだけ提供すべきであると思うが、ただ数字を示すだけでなく、どんなポリシーをもって医療を行っているか、どのような疾患を得意としているかなどの情報や、このような場合や患者は診療不可能であるといったことまで提供していくべきであると思う。

重症者が多い病院ほど、死亡率が高くなる。心臓手術を例にとると、軽症者だけ手術するような病院があったりする。

医療上の内容を、この業界に居ない人が理解するのは難しく、また、誤解を生じやすいので誤解の元になりうる行為は慎むべきである。

客観的に医療機関を評価することがなかなか困難。例えば重症例を多く診療している病院では、そうでない病院(重症例は転送している病院)に比較し、当然死亡率は上昇するであろう。

制度を整備して必要な情報は患者に開示されるべきだとおもう。

単純なアウトカムだけでなく、患者年齢層などアウトカムに関係があるものはすべて公表するか、それを考慮に入れた情報を公表すべき。

都道府県名と病院の2語で検索したらたくさん病院が検索できたので自治体のサイトでは保健衛生面を中心に掲載したらいいと思う。

情報は公開すべきであるが、どこまでどういう形であるかはまだまだ難しい問題であると思われる。ここまでというラインを足麻美をそろえることがまず必要でしょう。

表現の自由と言った問題はあるにせよ、人の健康と言った重要な問題に関する情報提供であるから、なにか標準となる物差しや、第三者機関による標準化が必要だと思う。

たくさん公開したほうがよいのはわかりますが、手術成績をよくするために軽症ばかり治療するということが無いようにお願いします。

どのような病気(症状)ならば、何を疑い、どの病院に行けば良いのか?をフローチャートのようにWEB上で教えてくれるシステムがあれば便利!

医療機関のoutcome情報を提供する方向での風潮は理解できますが、実態からいえばまだまだ客観的な比較の方法が確立しておらず、これを厳密に適

応していくのはかなり困難と考えます。一般の人が工場の製品管理のようなつもりで数字だけを見ることになる点を憂えています。さらにいえば、この方向性が加速すると、一般の医療機関は同じ病気なら治りそうな患者さんを選択する作業が始まるでしょう。そうした実態を無視して数字だけが一人歩きし始めることは危険とさえ感じます。

データの一人歩きが良くないから、お気に入りに登録しておくので、サイトの探すのは瞬時客観性のある情報というものをホームページなどの一方的な情報のもとに評価するのは一般の患者さんには無理なのではないでしょうか。実際外来受診者のほとんどが知り合いの口コミでありその病院の一方的な情報公開ではないことは事実です。

緊急性の無い患者の救急診療があまりに多いので、医学的な知識の普及が必要。また、日本の医療制度の問題点を明らかにすべきである。

すべて情報を明らかにするように法制度化すべきだ表面的な情報のみではその病院の本来の治療の質はわかりません。専門医とは名ばかりの医師もいますし、いわゆる「名医」もあてにはならないことは、医師であればよくわかります。絶対に客観的な評価を含む情報は可能なのでしょうか?

情報の更新がきちんとされるかが重要。今回みたサイトは2001年2月の情報であった。地域によっては隣の区のほうが近い場合もあり、近隣の自治体の医療機関の情報とのリンクがあれば便利。

状態により病気の治癒率、患者の死亡率はちがうので、担当医による補足説明が必要とおもわれ、公開しないほうがよいと思う

医師の専門性をもっと公表できるようにしたい。同じ診療科でも得意分野で病病連携すべき。

医師の専門分野に関する情報。

アウトカム情報に関しては、開示すべきと思われるが、各病院/各科が正確に数字を出すか、またどこがそのデータをチェックするかが大きな問題かと思われる。すでに地方では医療機関の評判がある程度共有化されており、重篤な場合はインターネットでアウトカム情報を手に入れる必要性はない。そのときには、放射線科医とか各科のつながりのある友人に聞くであろう。医療機関や医師の情報は線形情報だけでは不十分で、非線形情報をどのように手に入れられるかが問題と思う。

情報収集が十分でない、発表したものが偏った情報となってしまう。

診療科だけでなくたとえば食事療法などでも検索できるとよい

医師の情報を充実させてほしい。経歴、専門分野などが知りたい。

医師の年齢、専門医資格など表示してほしい

アウトカム情報の公開は必要だと思う

ネットでは必要ない

じぶんのHPで行うことが必要と思う

自然療法の医院を知りたい。

アウトカム情報のアップを考えて、重症または困難症例を忌避する医療機関が出る可能性があります。病院評価機構などの評価の方が有用と思います。

医療機関の全名称と専門科目を地域ごとにまとめて欲しい

実際にすぐ活用できるような情報が少ないように思う。電話帳に載っている程度の情報ならネットで発信する意味はないので、もっと具体的かつニーズに合ったものがよいと思う。

美容整形などだけが自由な広告をだせて、一般の医療機関がそうではないのはおかしい。

客観的評価は数字として出すしかないと思いますが、それだけでは実際に患者が受ける利益は知れていません。将来、医療機関の評判や評価を掲載するホームページができて、旅館や飲食店のように、口コミの情報が広く知れ渡るようになって思われる。

治癒率や死亡率で病院の善し悪しを判断するのはとても危険と思う。

患者にとってあまり紛らわし情報はかえって混乱するだけだと思う。必要最小限の情報のみで良いと思う。大学病院を中心としたヒエラルキーの中にある病院に勤務する医師は働いている病院に対する愛着の気持ちが少ないので病院に関する情報を出すことに価値を見いださないかもしれません。

real timeに診療可能な病院を地図上で表示する。豊明市在住ですが、豊明市のホームページに医療機関に関する情報が全くないのに驚きました。今後はもっと充実させていくべきと思いました。清掃工場の情報なんかは載っていて、時々利用していたのですが。

私の職場のある自治体では病院情報は市立病院に関する情報のみ掲載されております。各医療機関のせめて診療科目、診療時間、住所、電話番号くらいは載せてもいいと思います。

自治体からの情報から頼らなくても、それぞれの病院医院がインターネット上で詳細に情報を提示しているので、わざわざ自治体が行わなくても良いように思います。

医療機関の情報提供が各施設でエスカレートすると、情報が宣伝などの本来と異なる目的で使われるおそれがある。たとえば手術成績をよく見せるために適応を絞り込むなどといった本来の医療の立場から逸脱する行為が行われる。

一般病院も宣伝だけでなくアウトカム情報を公表できればよいが、当院<一関病院>は医師不足で不可能か???

個々の病院の情報は、各病院が情報を提供すればいいのではないか。どのように情報を提供しているかが、その医療機関がどのような機関であるのかを自己表現していることになると思うから。アウトカムの公表はしてもいいのだが、各医療機関のホームページで情報を提供すればいいのではないか。アウトカムを出すようなところは、それなりの医療機関だと言うことにはなるのではないか。公的サイトで、各病院のホームページへのアクセスができるようにしたら良くないか。

行政は自ら情報提供するのではなく、資金提供などの面での援助を考えるべきだと思います。

患者サイドとして一番知りたいことは、施設ごとの医療の質であると思われる。質を反映させうるようなパラメーターの表示が可能であれば、情報提供は患者にとって有意義と思われる。が、在院日数や疾患別死亡率など、必ずし施設ごとの医療の質の比較にならないような情報を垂れ流すことは、かえっていらぬ不信を招く恐れもあり、パラメータの選択は慎重であるべき。

医療機関に対して悪質なメールなど(脅迫や誹謗中傷)が送信されないようになればいい、と思います。規制をはずし、あらゆる情報が飛び交うこと、その状況下で患者自身も見極める力を養うべき情報公開を押し進める必要がある。

標榜科が「内科」でも、小児科から心療内科、時に整形内科もカバーする場合も多い。標榜科目を一方的に宣伝すべきとは思わない。

どの医療機関がよいかを客観的に評価するのは極めて困難で、その項目だけを満たそうと無理に腐心する医療機関が出てきて本来の業務が二の次になっては困る。

宿泊ホテルを予約するのに「旅の窓口」を便利に利用しているが、医療機関でもインターネットから外来予約ができるようなシステムはできないのか。

自宅の住所を入力することにより、最寄の医療機関を教えてくれるようなコンテンツ。

基本的に公開するのは賛成だが基準を明らかにすべき

難しいですね。勉強もせず看板を掲げる医者を見分けることは困難です。何が客観的かと言われても…。各医療機関によって様々なレイアウトでそれぞれに特徴があるものの探すときに手間取ることもあると思います。レイアウトのどこかが共通した場所があると病院間での比較が患者側ではしやすいのではないのでしょうか。

先進のアメリカでも苦勞しているのに、客観的に比較可能なデータをアウトカム情報として得ることができるのか？また、日本の現在の民情(e.g. 質の悪いマスコミ)でそれらの情報が本来意図されたように使用されるのか？

画像などの瞬時に分かりやすい方法を成るべく取るべきである。また、人事移動などにはすみやかに対応しなくてはならない。

どんどん進んでいくと思います

患者さんはどの病気の時どこにかかったら良いかを一番知りたいと思う。

医療機関の情報の多くは、宣伝とされているものが多く、信頼性にかけると思われる。

何が出来る、どのような特徴のある医療機関か、を的確に簡単にわかりやすく記載、提供すべき。とくにお役所言葉は絶対にだめ。何が書いてあるか、読もうともしないし読みたくも無い。図を入れてこんなときはどうするのか、この先生は何が出来るのか、まで情報開示できればとてもありがたい。できればその先生の性格。

患者が理解できる情報提供でないとかえって混乱する。

連携病院情報や診療内容の公的機関の評価など民間の医療情報提供会社が病院のランキングをするのは自由であるが、その評価・判断材料となる十分な情報を国または国に準ずる機関が、質や信頼度に関する基準を設けた上で提供すべきである。

提供することに不満はないが、レイアウトを整える、つまり、基準を決めて提供しないと、各施設がそれぞれに一方的に情報提供すると、誇大報告でなくとも数字に差が現れたり、それぞれが真実であっても、一般の人に誤解を与える結果となってしまう、かえって混乱を招く。知識が少ない者、偏った者に対しての一方的な情報であることに留意すると、何が何でも情報公開することは、正しいといえないと思う。

自治体の医療情報は医師会にリンクさせて、そちらから情報流すのが良。それより診療科目いっぱい付けている診療所ありますが、あれ何とかありませんか？医学経歴と医療実績が混同して、一般の人に伝わる可能性あり。医療は実務、実績が重要であることを患者側に認識させるべき。

自分の住所を入力すると近くの当番医や診療所の一覧がリストアップされる機能も面白そうですね

今回みた板橋区のHPでは、単に医療機関の住所、電話など、単にリストアップのみで、どの病院へコンタクトをとったらよいのか、という点で非常に情報に乏しい物と思われ。自治体として私的なHPへのリンクは支障があるためかもしれませんが、個々の病院HPへの直接リンクを張って頂ければ、より詳細な

情報を手に入れることが出来ると思います。

医療情報の公開により成績優秀な病院への患者集中が起こる方向になると思われる。長野県など田舎の地域医療でもともと医師不足のところでは特定の医療機関集中により良心的な勤務医の相対的負担が大きくなり、勤務医がやめていくことで勤務医不足がさらに悪化する悪循環を生む可能性が高い。

アウトカムの情報開示は重要とは思いますがそこへアクセスする人はその使い方に問題が生じると思います。現状としては公的な機関あるいは利害関係のない第三者によりその情報が把握されることは有用かも知れませんが、通常の情報公開にはまだなじまないと思います。

患者さんが自分の症状から、かかるべき病院、医院と、診療科、医師名までわかるようになるとういすね。唯一の勝手放題を言える媒体である事を理解しなくては情報に踊らされるだけであることを、閲覧者に啓蒙する必要はあるでしょう。

在宅医療関連の情報：訪問診療(往診)に関する情報、訪問看護ステーションに関する情報なども必要である。病院については療養型病床に関する情報(医療保険適用、介護保険適用の別)も必要で、今回のアンケートの設問は視点として高齢化の現状に対する認識が欠けていると思う。

専門医認定医の明記、出身大学は最低でも公表すべき

情報公開することが病院の競争と淘汰という結果になってこそ日本の医療は改善されると信じています。医療の質を問われずに診療報酬が払われる現状は狂っていると思います。

どんどんすすめるべきである

患者を不安に陥れない配慮が必要で

もう少し情報開示あるいは宣伝出来る範囲を拡大すべきである。使用出来る言葉の選択など現状は全く馬鹿げたものである。障害者が受診しやすいバリアフリーな診療環境を整えてもそれすら表示出来ない事などがその例である。規制などなくとも過剰や虚偽の情報を流す医療機関は自然に淘汰される時代がすぐに来るでしょう。

専門分野の自由な宣伝を早急に自由化すべきである

もう少し簡単に検索できるようにして欲しい

提供される情報が必ずしも事実とは思えないことがあり客観性がない。専門でもないのに専門家らしく振る舞う医師がいて誤解を生じやすい。

休診日や診察時間に関する情報をたやすく検索できるように、自治体や各医師会で努力すべきである。

現在、広告の制限があるにもかかわらず、HP上では自由である。why?

各医療機関の治療行為の目的、性格が、第三者に理解できるような情報を提供すべきである。この意味で公共機関は施策としての医療行政の情報提供に徹するべきだ。

情報公開と広告合戦とは紙一重ではないかと思う。宣伝料を商売にしている業種には好感が持てない。情報だけが氾濫して、実体が伴わないことが多い治療できる疾患と治療できない疾患を表示すべき。さらにどこまで治療できるかを詳しく解説する各医療機関へのリンクまたは医師会へのリンク兵庫区医師会のホームページではそれが大体わかる。

情報の勝手な先走りを防止する必要がある。客観的に比較可能なデータを提供する方法とはどういふものでしょうか。特に私立の医療機関では、見かけのデータを良くするため、患者の選抜がされるのではないのでしょうか。

情報の偏りが大きい。統一したフォームによる提供が判りやすいかと思う。そこで行える検査や治療法について具体的に細かく示す。難病や特殊な疾患に対する専門医が居るかどうか。病気に対する一般的な説明(その中にはその病院独自のものがあっても良い)。

単なる上辺だけの党利一辺倒なものが多いので、得意な治療など特色を積極的にアピールしたらよい。逆に治療経験のない、乏しくない病気について正直にその旨を公開すればよい。

出来るだけ情報量が多く、しかし情報提供のプラットフォームが均一で整備されていて欲しい。確実な情報のみを載せるべきだと思います

世情の影響もあろうが、とかく医療に批判的(八つ当たりの面もある)な輩に材料を提供することになる。一生懸命に診療を行っても、揚げ足をとることに執心の輩もいる。この現実、意欲をほとんど失っている昨今である。

医療行政に関する抽象的な情報ばかりで、殆ど何の役にも立たないと思われた。医療機関に関する具体的な情報が必要である。

公的機関に勤務しているが、医療機関に関する情報提供する公的機関の職員が3 - 4年で移動するため、的確に情報を判断できない。当院でも事務長がまったく畑下違いの土木事務所などから転動してくる。

公然とすべき

専門医の紹介

各自治体のHPを充実させて欲しい。

医師の質がわかるような情報を。

基本的に純粹の医療情報は地域全体で管理すべきと思われる。しかし、当該自治体とその地域の医療関係団体の協力体制のレベルにも差があり、同列では

述べにくい。医師会が第三者的な意識を持ち適切な情報提供をすることができれば最善と思う。

医療機関の情報提供を市町村等公的機関で行うべきでないと思う。NPO等の第三者機関が主体になって行くべきであり、公的機関は休日夜間の診療案内、保健情報等のみでよいと思う。また現在の救急外来が、単なる夜間外来になっている現状、第一次、二次、三次救急機関の区分けが意味をなしていないことを考えると、単なる情報提供よりは「どの医療機関にかかるべきか(あるいは翌日まで待つべきか)」という相談がweb上でできるようにした方がいいと思う。

各医療機関の特色もアピールできたら良いと思います。

何らかの基準、規制が早急に必要である。

大学病院の関連施設かどうか、どの大学の関連なのかの提供

明確に、確実に、公平に、客観的に情報提供してくれる機関が必要だと思う。

独自のホームページも有用だが、医療に関する公的ホームページがいる

国がやるとなし崩しになる

今のところ、インターネットよりも患者さんの口コミ情報の方が情報としての価値が高い。今後は携帯むけのメーリングリストだとは思いますが。

客観的情報にかぎるべき。合理的基準をつることが重要。誇大広告的な宣伝に使われないようにすべき。今の日本で正確なアウトカムを出せる医療機関は皆無である。

医療機関ごとに提供する医療の特徴が異なるはずであり、医療機関が発信する情報公開の内容の信頼性と自由度が保証されていく基盤が必要である。

国、自治体などの監督機関は、医療機関に対しガイドラインを徹底しそれに従って医療機関自身の手で伝えるべき情報を選択し発表することで、医療機関自身の自浄作用を促すことに繋がると思われる。

利用者が理解しやすい内容が好ましい。

情報提供はできるだけ多くオープンであるのがよいと考える

アウトカム情報については地域差(人口密度)により差が出て当然であるし、患者さんに偏った情報伝達になり賛成できない。ただし、医師についての専門医の有無などは公開すべきではないか?

もっとなんでもよいのでとにかく情報を公開していくべき

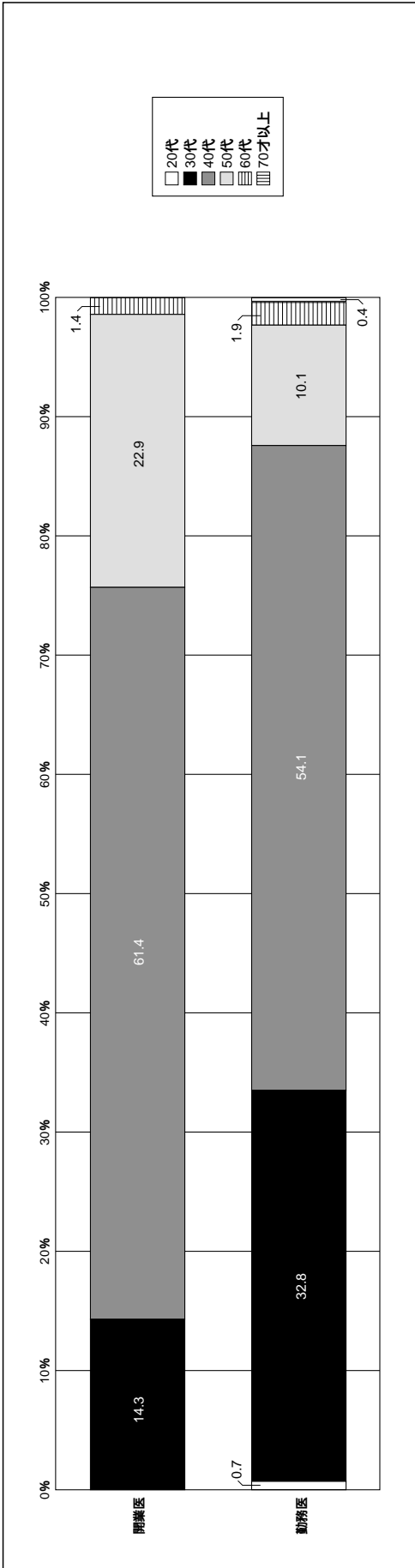
公的機関が医療機関を総合的に判断するのも必要であるが、個々の医療機関がそれぞれの主張を発表すべきである。

自治体という権威が、情報を提供するという事は、絶対的な評価を世間にむかって宣言することになると思います。マスコミはかなり一方的な誤った情報を提供しており、それと変な形で結びつくととても大きな誤解を生じると思います。新聞でも、朝日新聞や毎日新聞でもかなり感情的な情報の流し方を一方的にしており、(彼等自身はそれに気づいていないようですが)情報を流すときは悪い医者ばかりが居て、悪い事ばかりをやっているという形にはしてほしくないです。

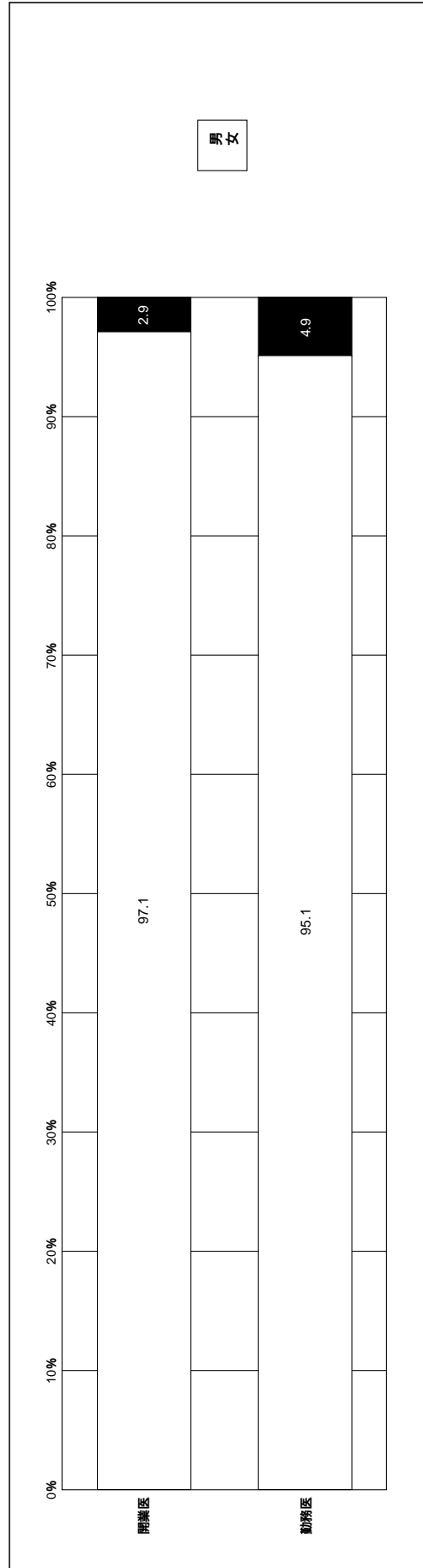
病院によって、得手、不得手がある。がんの死亡率を比較しても、簡単なものばかり手術して生存率を上げる、中小病院から、リスク覚悟で重症なものをあきらめずに手術する良い病院とを、単純に素人が数字の比較をすることは、良くない。アウトカムの公表は医療従事者において、意味があるものがある。とにかく、すべてを公開し、その後の選択は患者がすべき。情報化社会の中で、患者側がほしい情報はすべて公開しておくことが大切である。

資料2-3 勤務形態別によるクロス集計結果

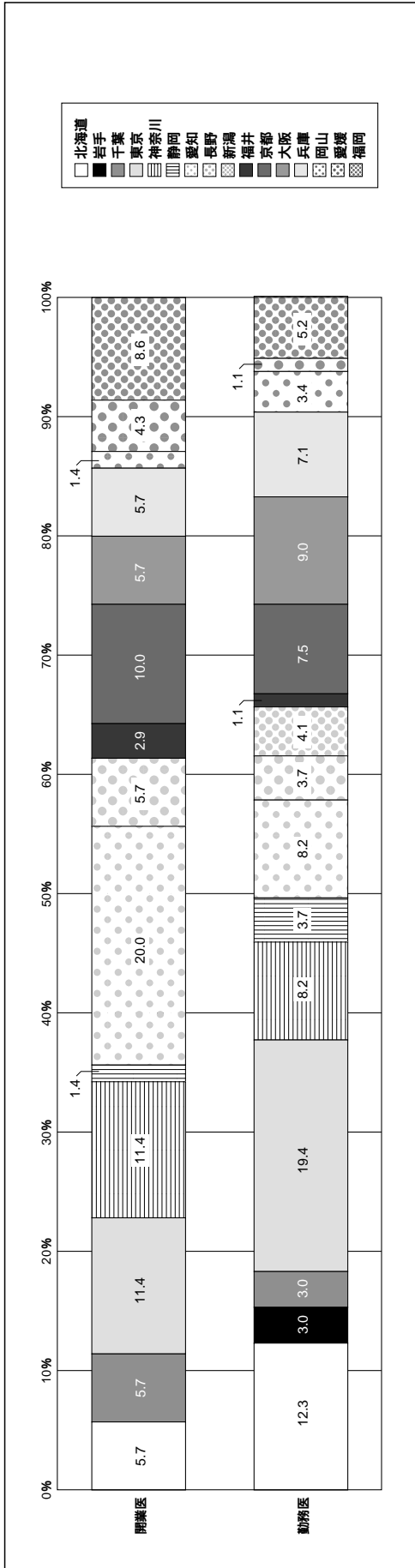
年齢 × 立場



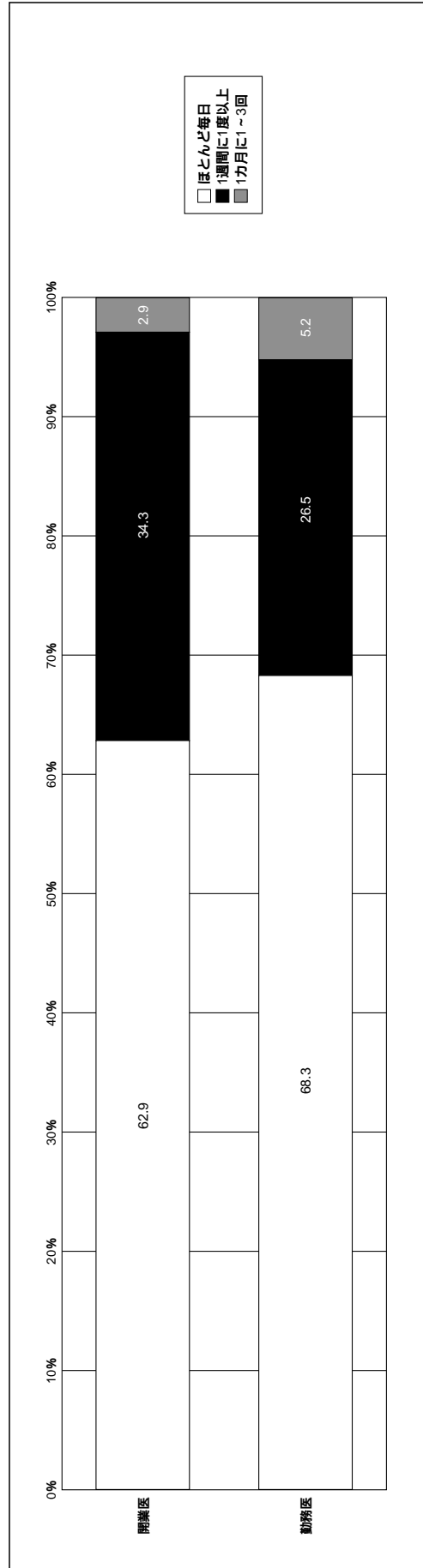
性別 × 立場



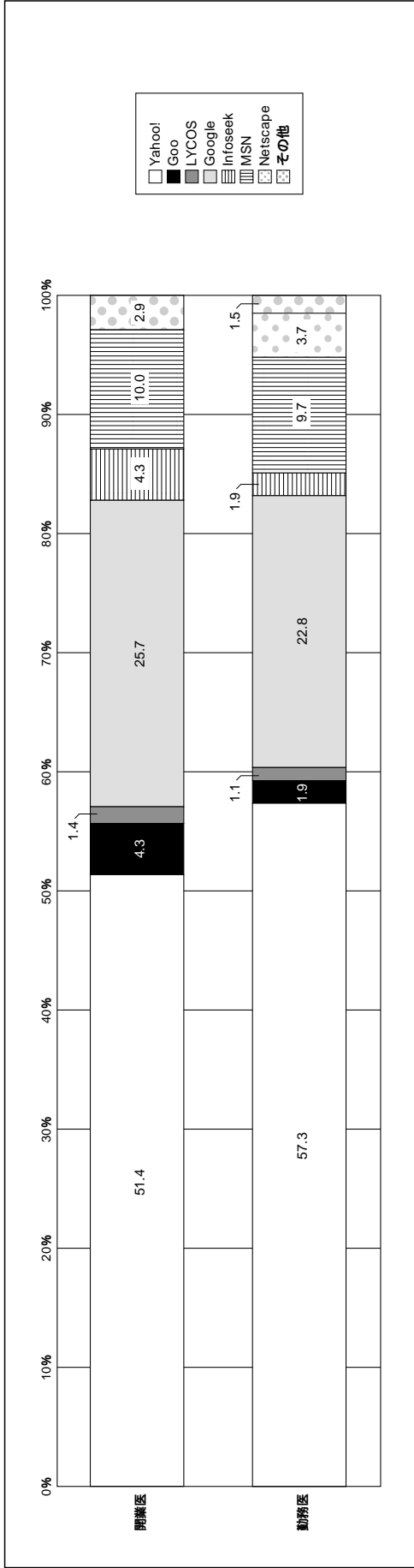
居住都道府県(アンケート対象者は16の都道府県に限定)×立場



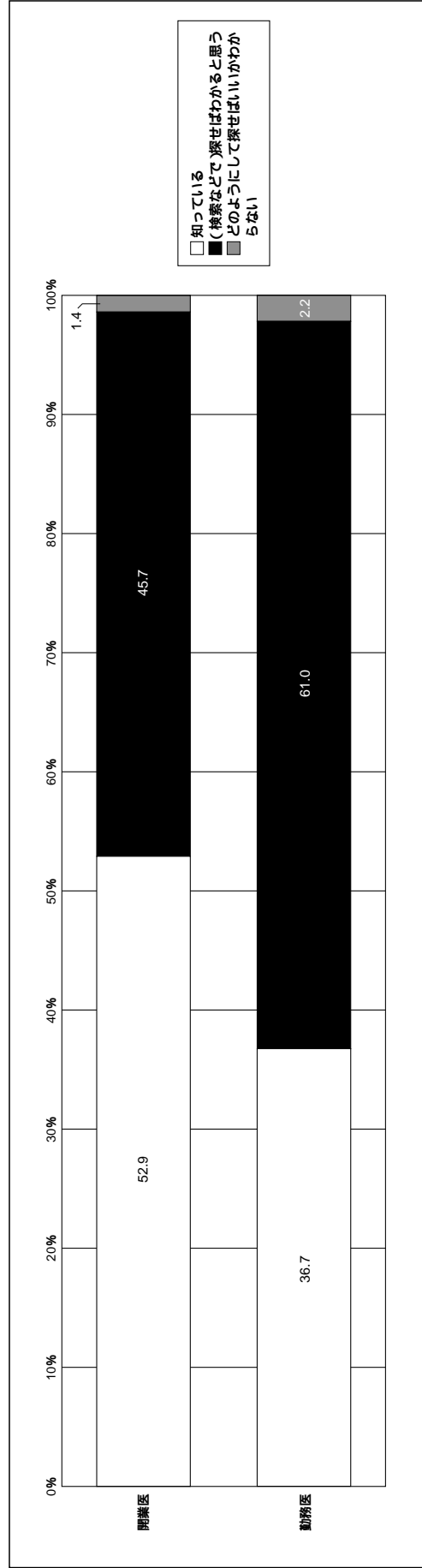
問1 インターネットを利用して医療情報(病気や医療機関に関するさまざまな情報)をどのくらいの頻度で利用されていますか? ×立場



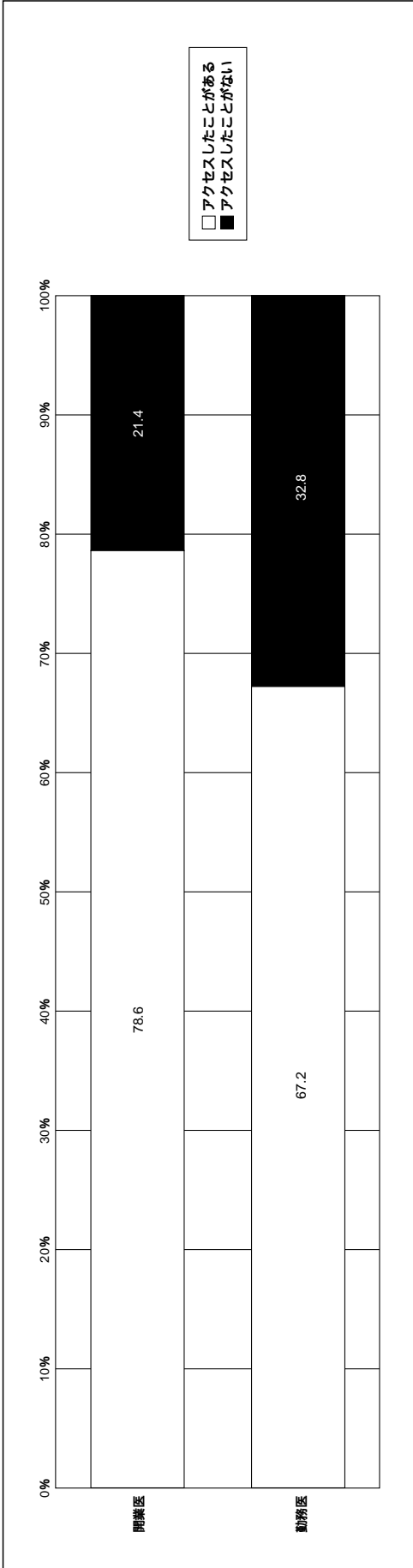
問2 普段、最もよく利用する検索エンジンをあげてください。(一つだけ選んでください)×立場



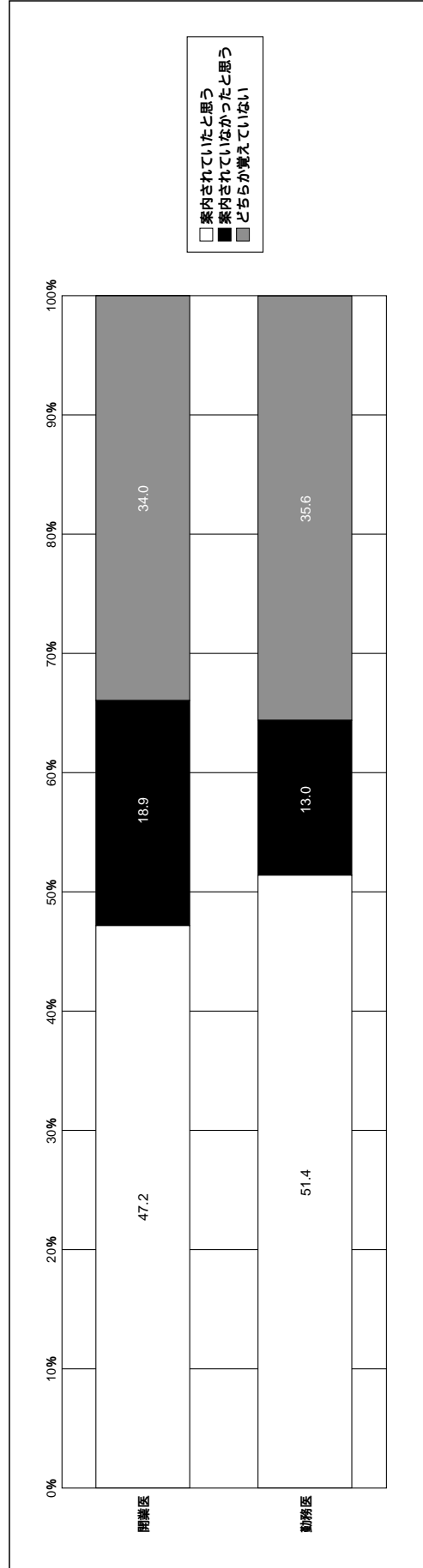
問3 都道府県または市町村の自治体のサイトへアクセスする(URLを探る)方法はご存知ですか?×立場



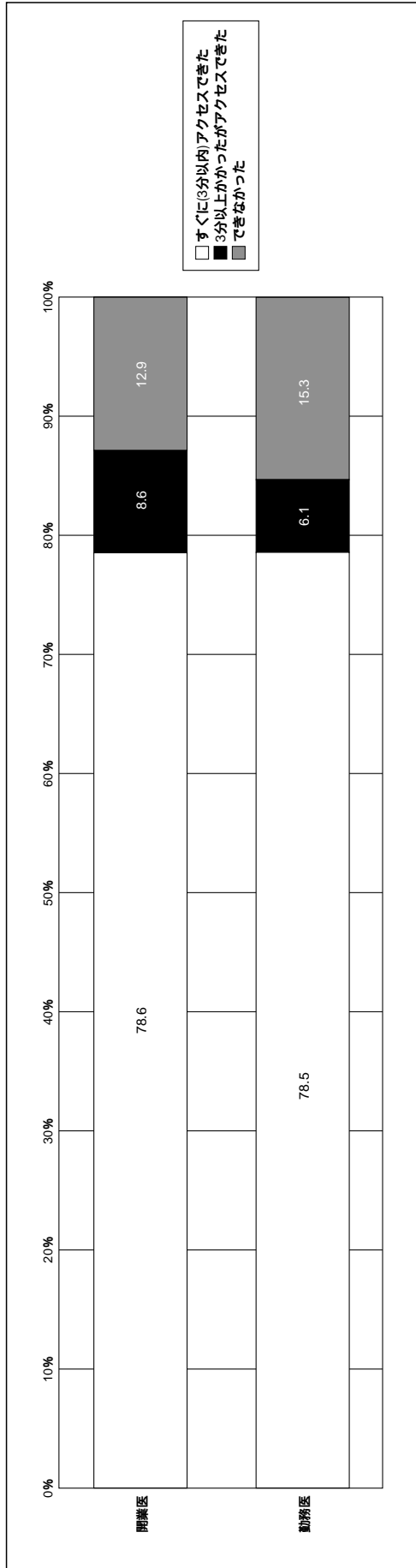
問4 都道府県または市町村の自治体のサイトにアクセスしたことがありますか? × 立場



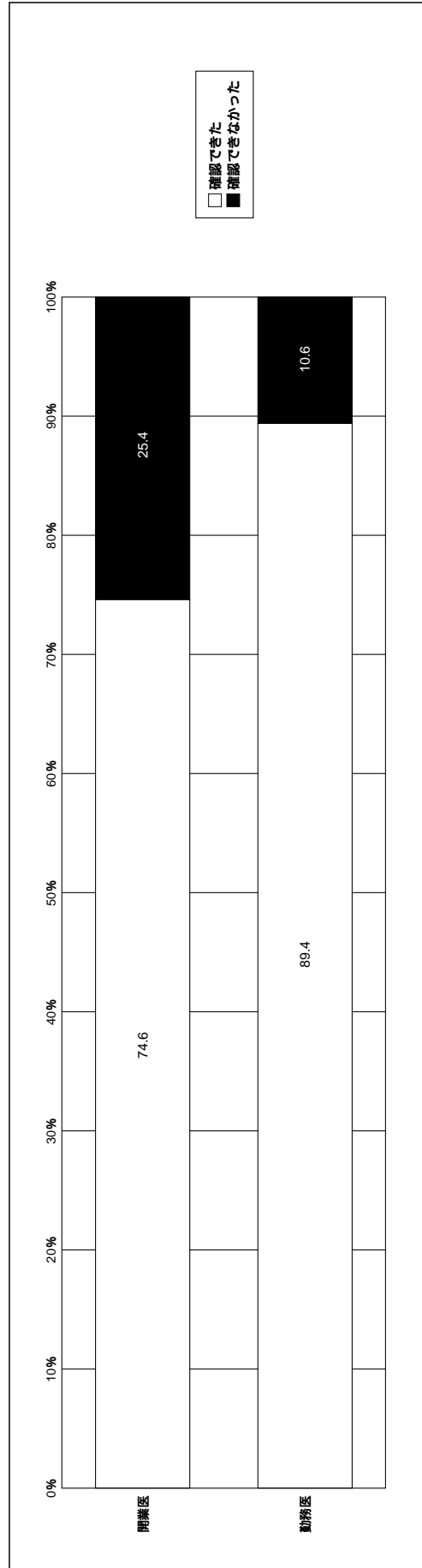
問5 その時、医療機関に関する情報が案内されたかどうか覚えていますか? × 立場



問6 あなたが居住する都道府県または市町村の自治体のサイトにアクセスできましたか? (上の説明を必ずお読みください) × 立場

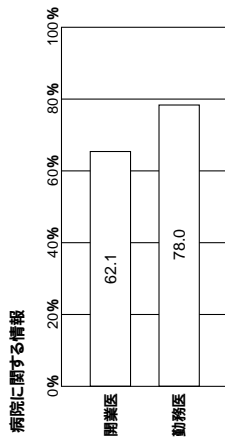


問8 上記のサイトにアクセスして、医療機関に関する情報を何か確認できましたか? × 立場

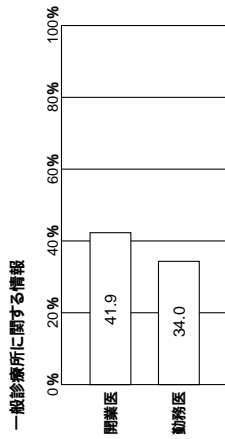


問9 どのような情報が確認できましたか？(いくつでも選んでも選んでもください)×立場

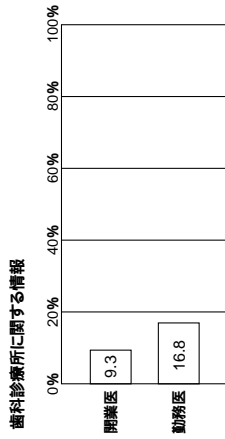
病院に関する情報



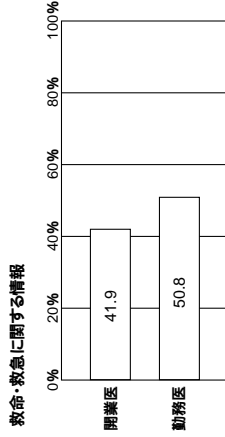
一般診療所に関する情報



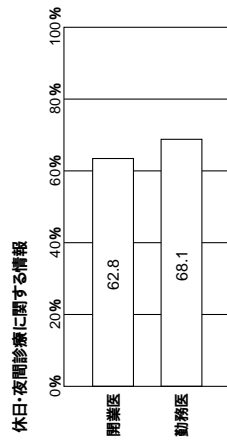
歯科診療所に関する情報



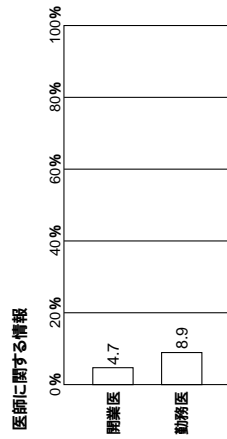
救命・救急に関する情報



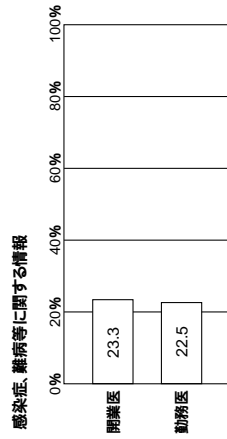
休日・夜間診療に関する情報



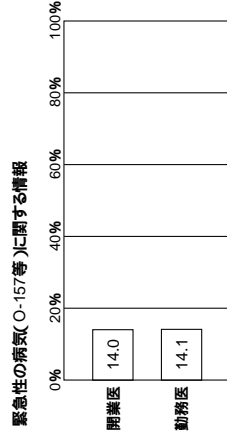
医師に関する情報



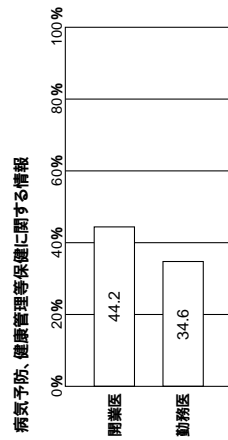
感染症、雑病等に関する情報



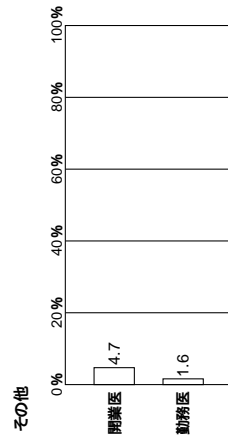
緊急性の病気(0-157等)に関する情報



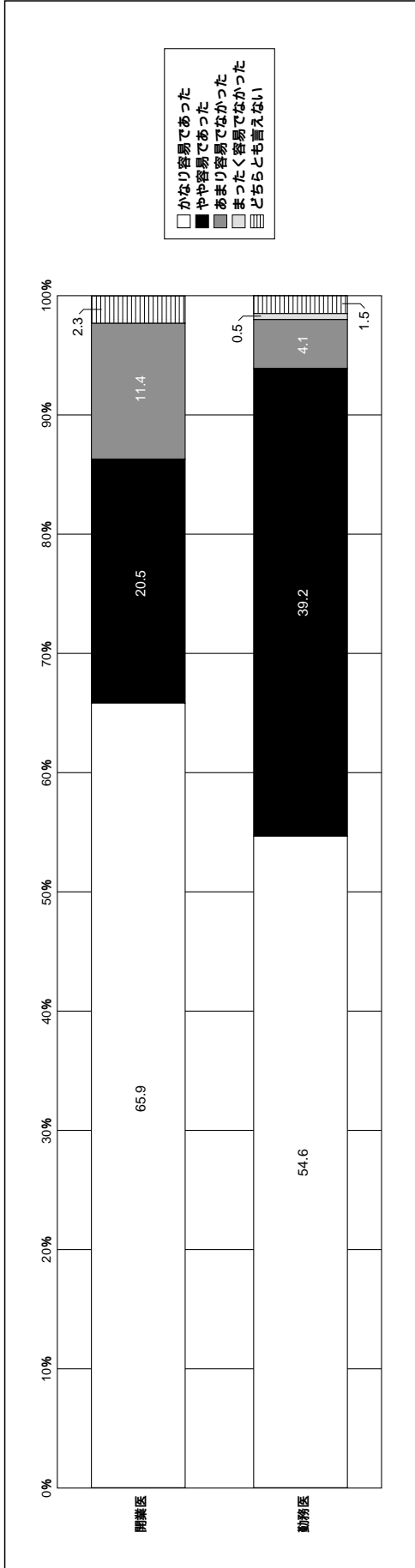
病気予防、健康管理等保健に関する情報



その他



問10 全体的に情報へのアクセスは容易でしたか? × 立場



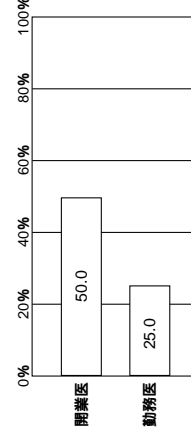
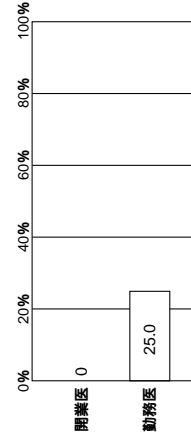
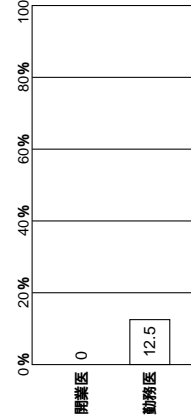
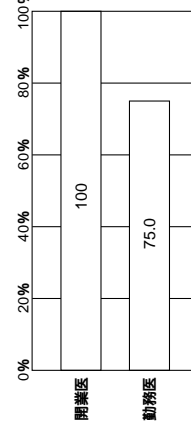
問11 その理由は?(いくつでも選んでください) × 立場

トップページからの案内がわかりにくい

リンクのボタンが多すぎる

デザインにまとまりがなく情報が深にくい

1ページの情報量が多すぎる

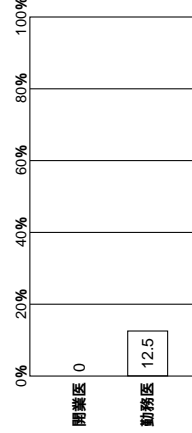
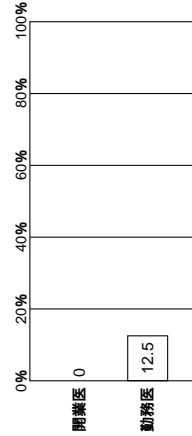
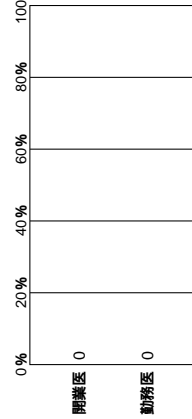
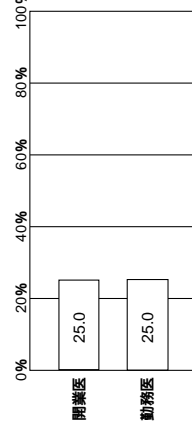


目的の情報へたどりつくページへの移動(マウスのクリック)が多すぎる

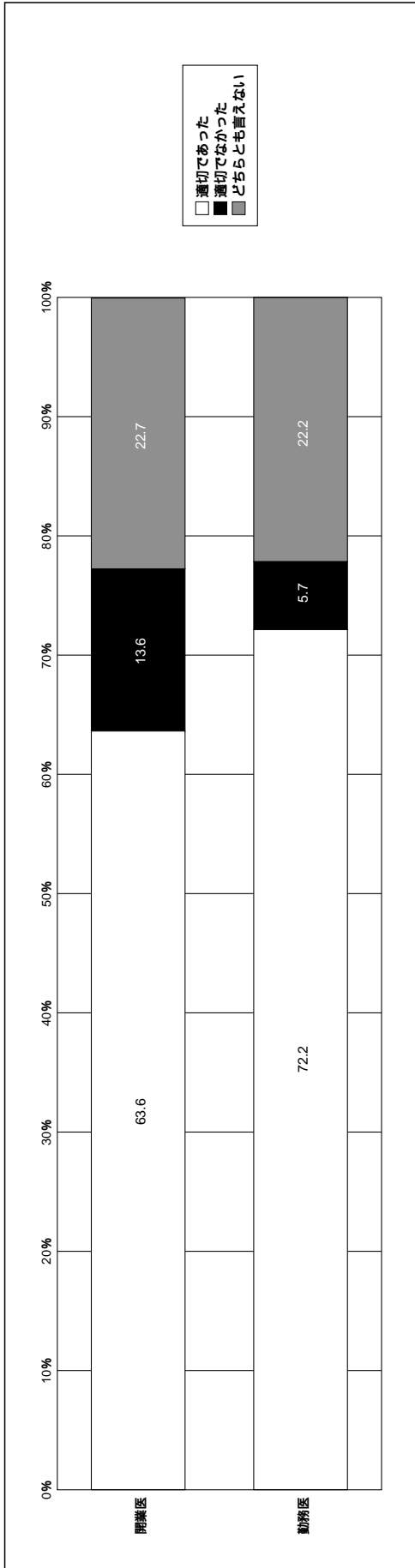
元のページへ戻れず迷子になった

検索機能が複雑すぎる

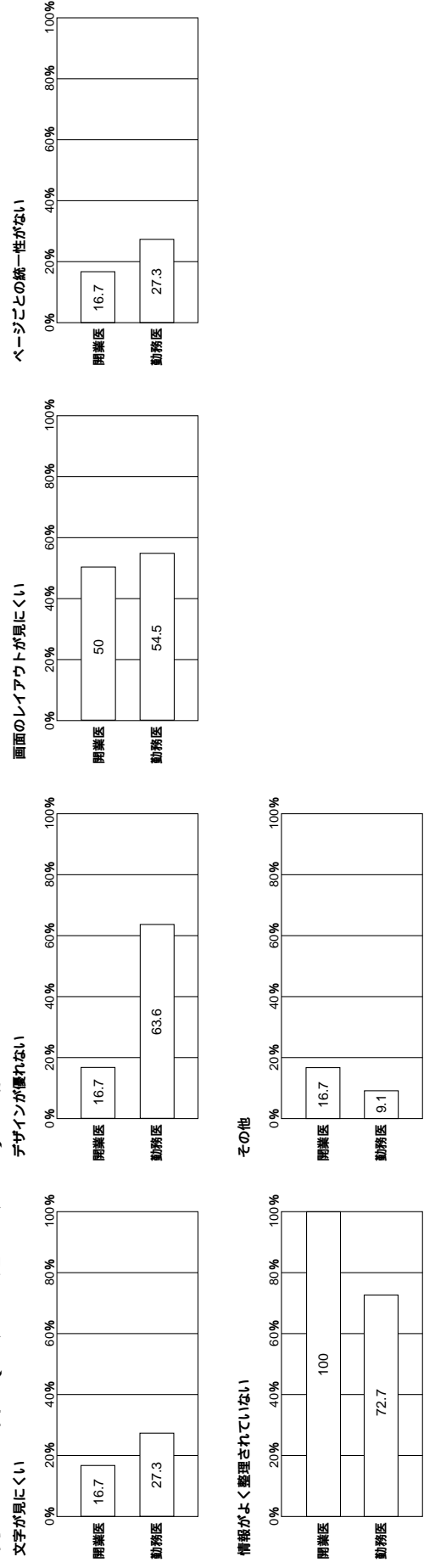
その他



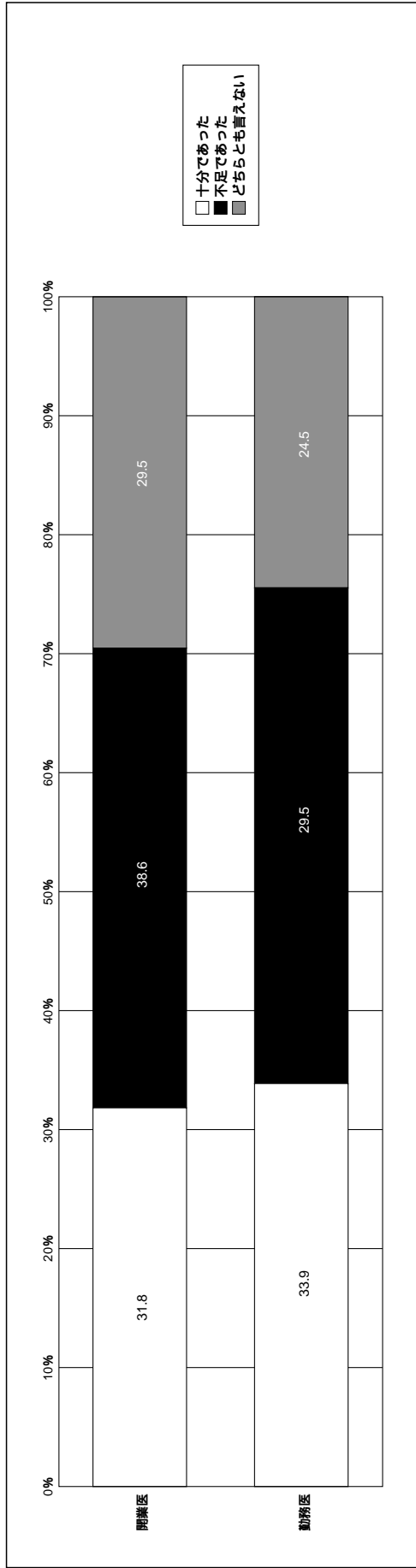
問12 文字、デザイン、画面のレイアウト等の情報の提供方法は適切でしたか? × 立場



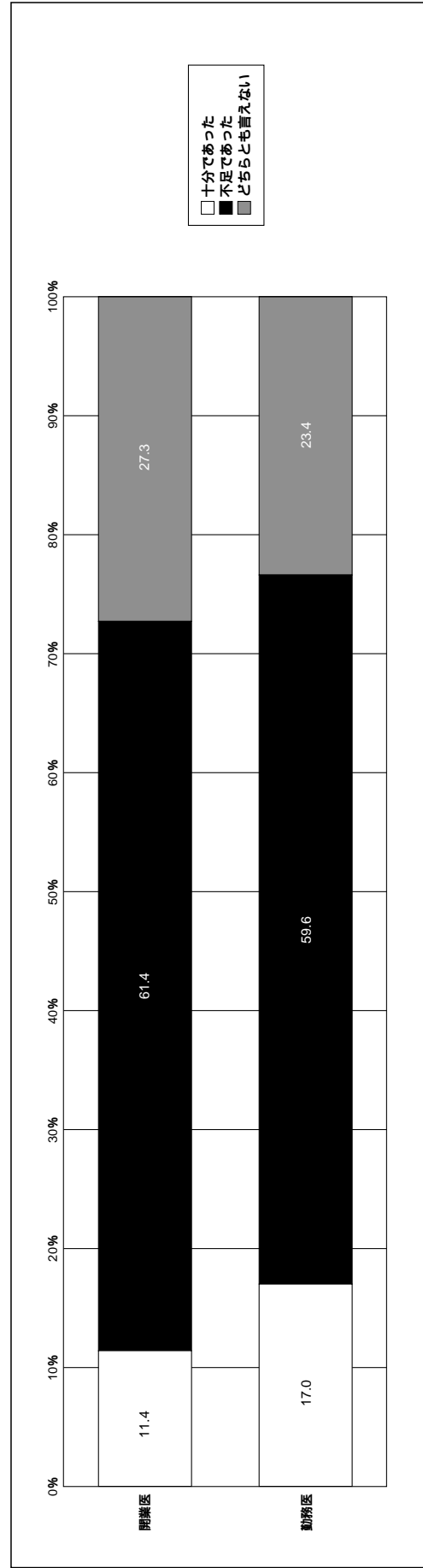
問13 その理由は?(いくつでも選んでください) × 立場



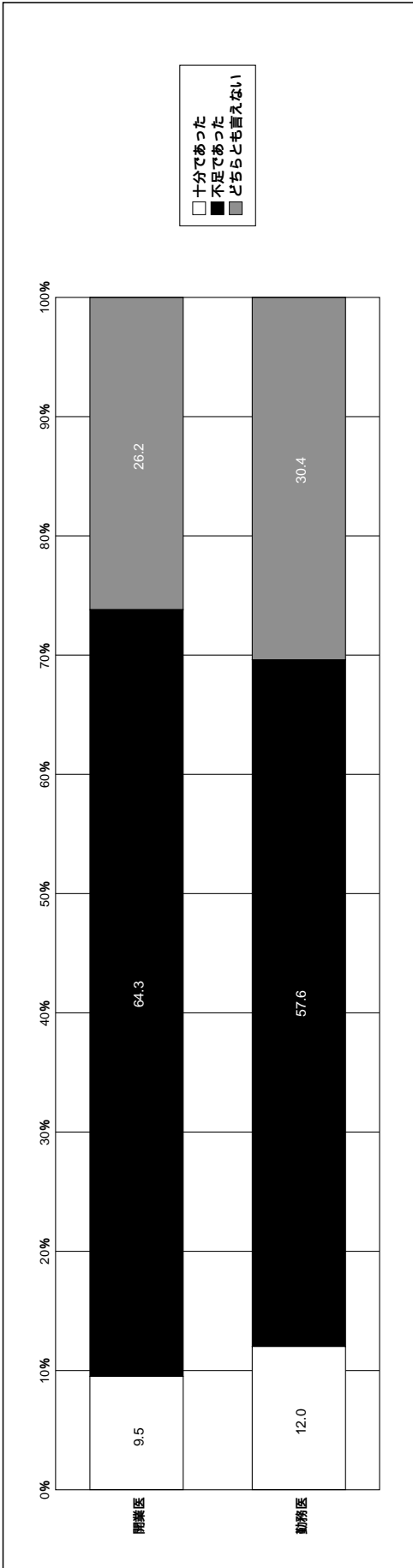
問14 提供される情報の内容は十分でしたか？
問14-1 病院に関する情報×立場



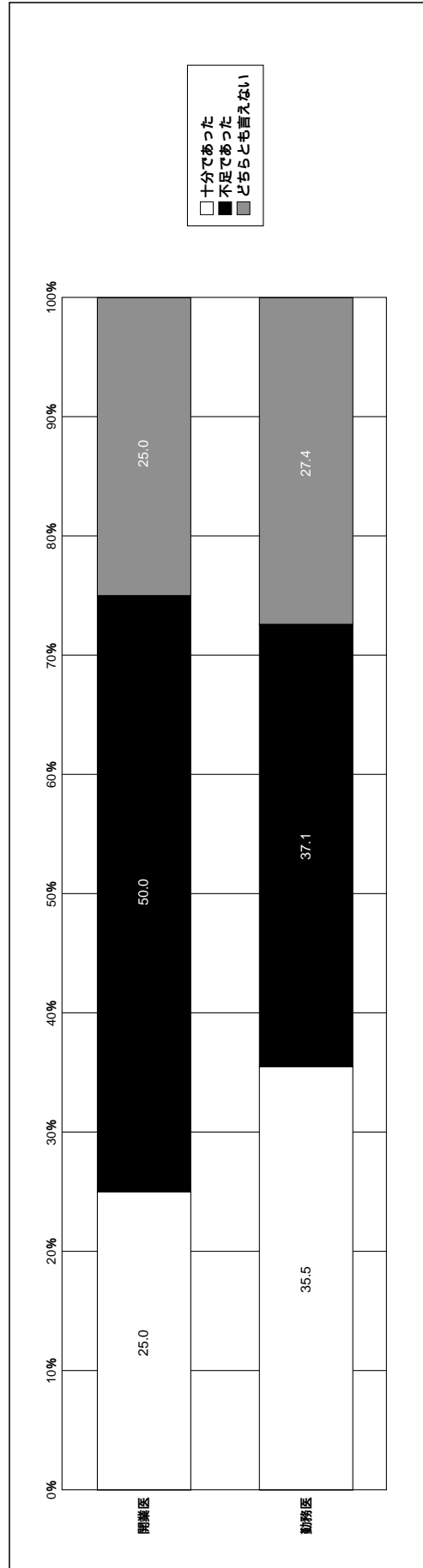
問14-2 一般診療所に関する情報×立場



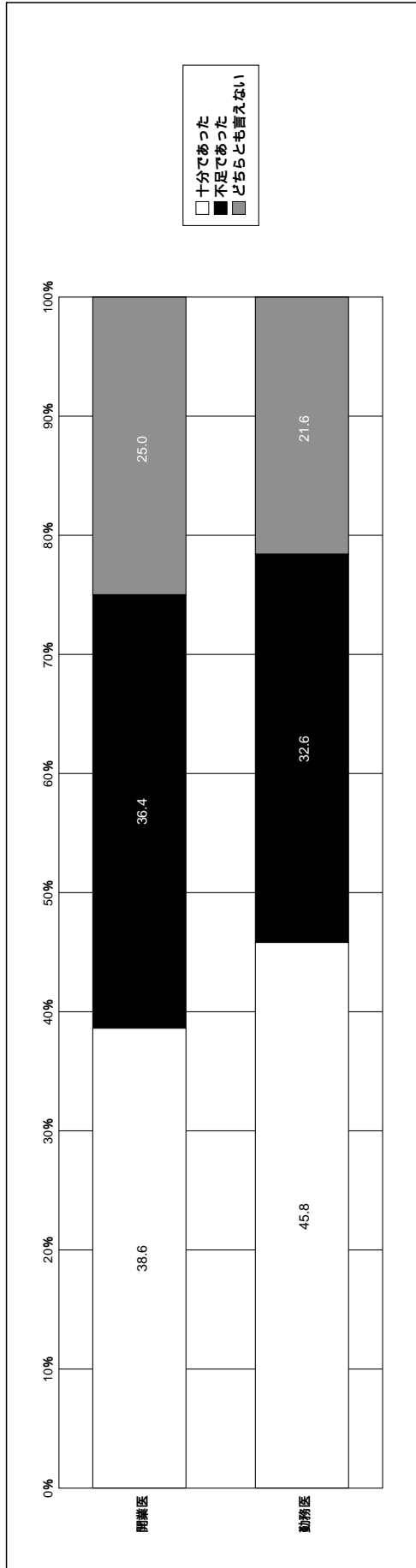
問14-3 歯科診療所に関する情報×立場



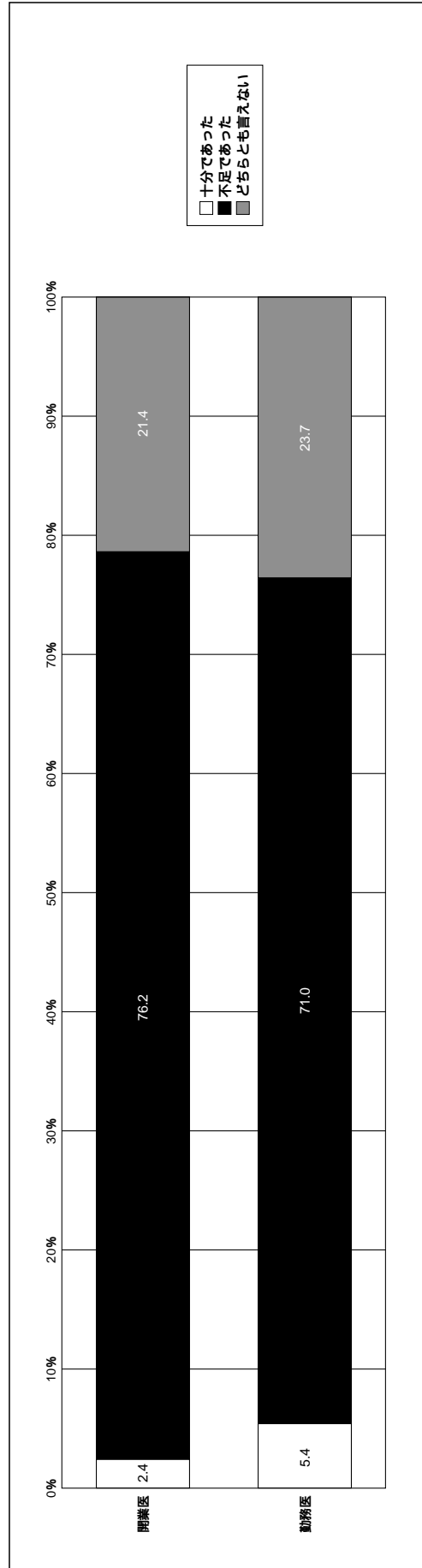
問14-4 救命・救急に関する情報×立場



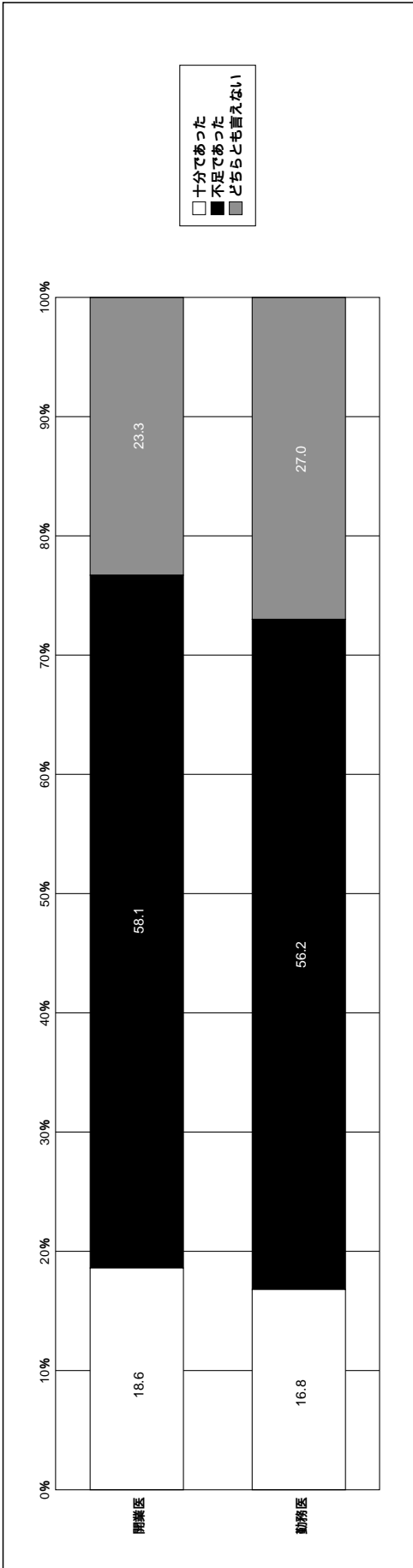
問14-5 休日・夜間診療に関する情報×立場



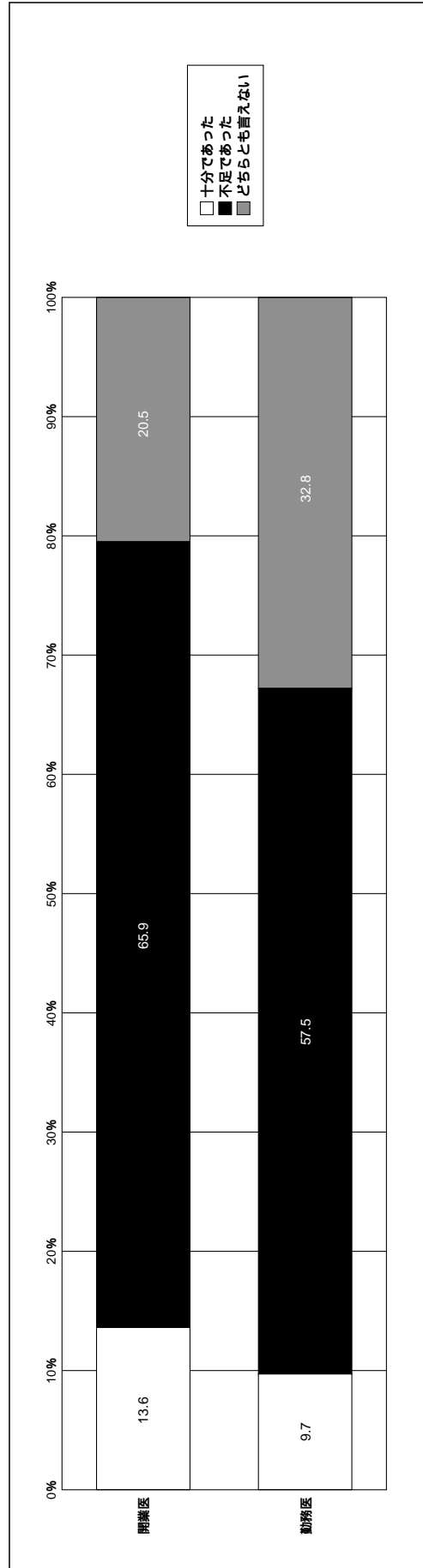
問14-6 医師に関する情報×立場



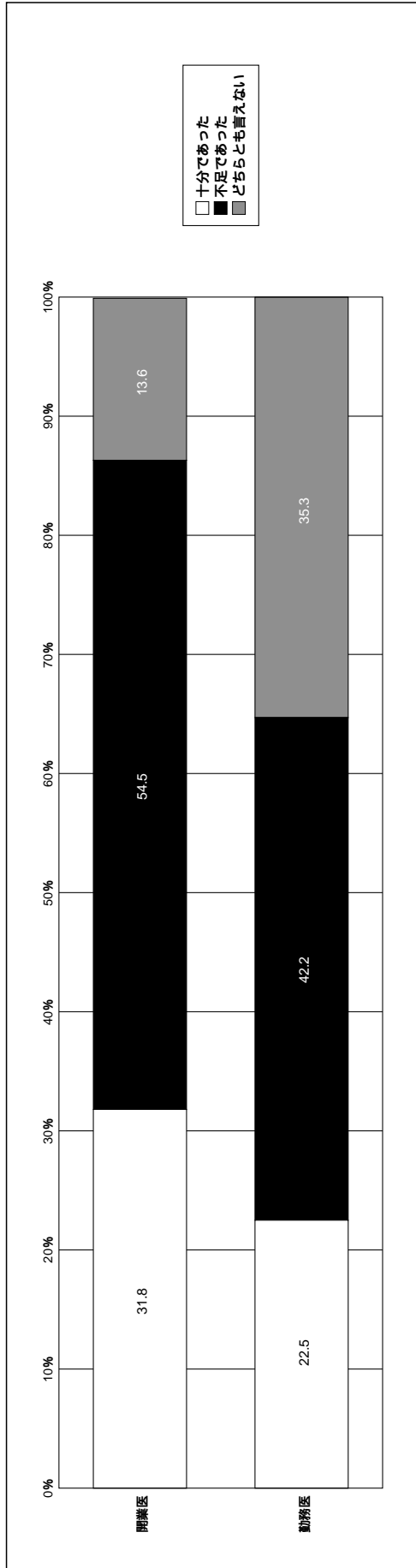
問14-7 感染症、難病等に関する情報×立場



問14-8 緊急性の病気(O-157等)に関する情報×立場

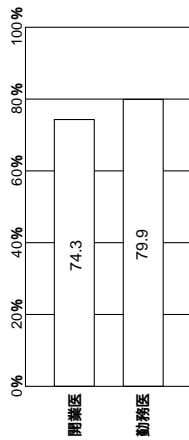


問14-9 病気予防、健康管理等保健に関する情報×立場

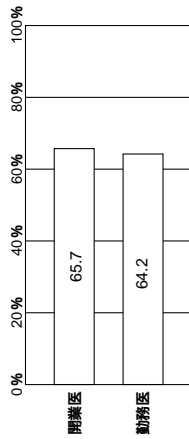


問15 今後、都道府県または市町村の自治体がインターネット上で提供を充実していくべきだと思われる情報をあげてください。(いくつでも選んでも選んでください)×立場

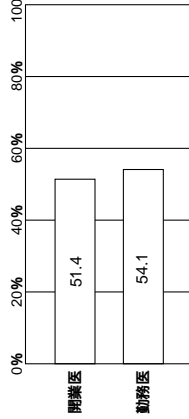
病院の名称・所在地、電話等に関する情報



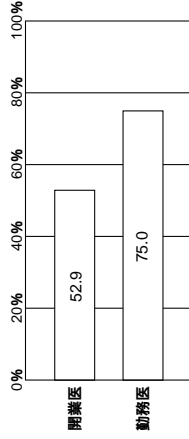
一般診療所の名称・所在地、電話等に関する情報



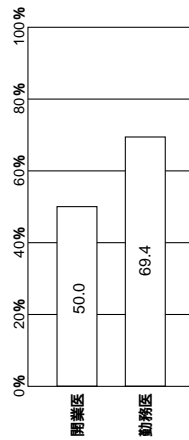
歯科診療所の名称・所在地、電話等に関する情報



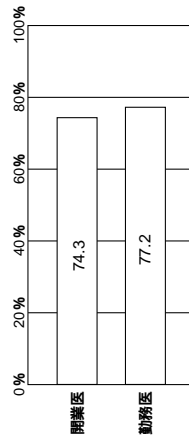
診療科目に関する情報



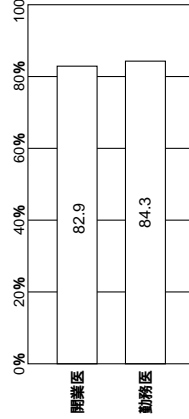
診療時間に関する情報



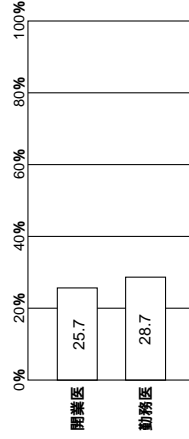
救命・救急に関する情報



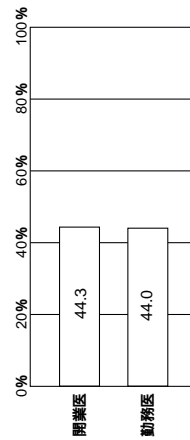
休日・夜間診療に関する情報



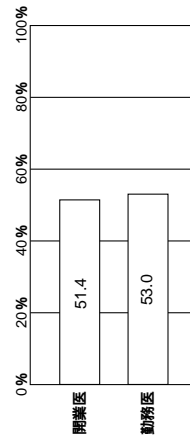
病床数、入院に関する情報



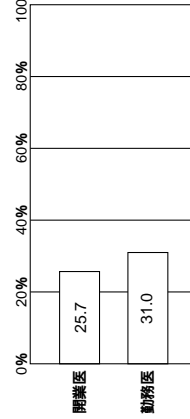
医療設備に関する情報



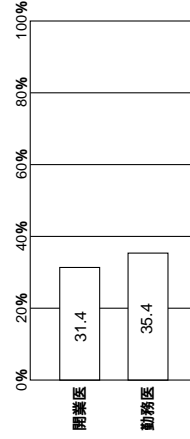
検診・予防接種に関する情報



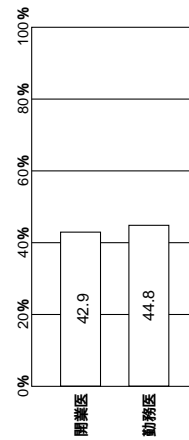
疾患別の治療法に関する情報



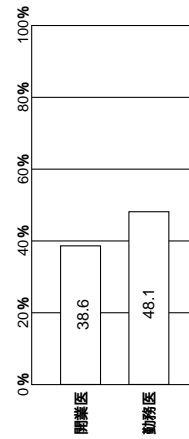
その病院でできる手術の種類に関する情報



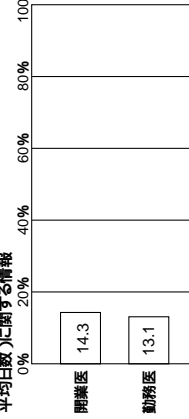
医師に関する情報



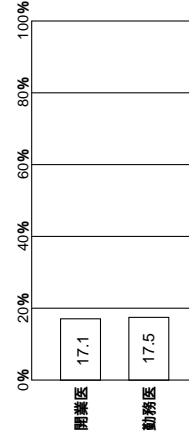
専門医、認定医などの資格に関する情報



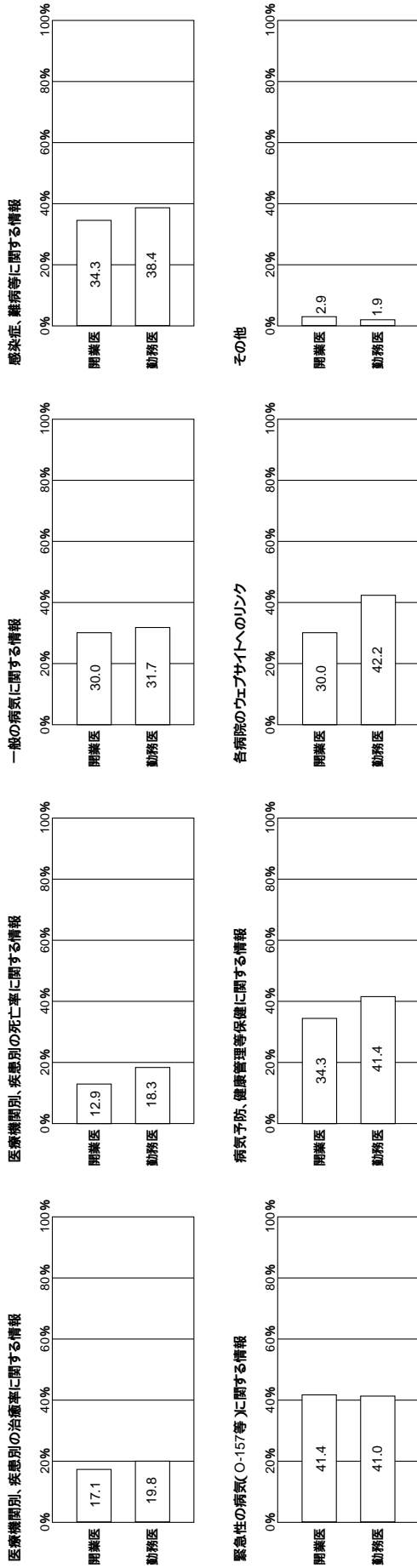
医療機関、疾患別の平均在院日数(患者が病院に入院している平均日数)に関する情報



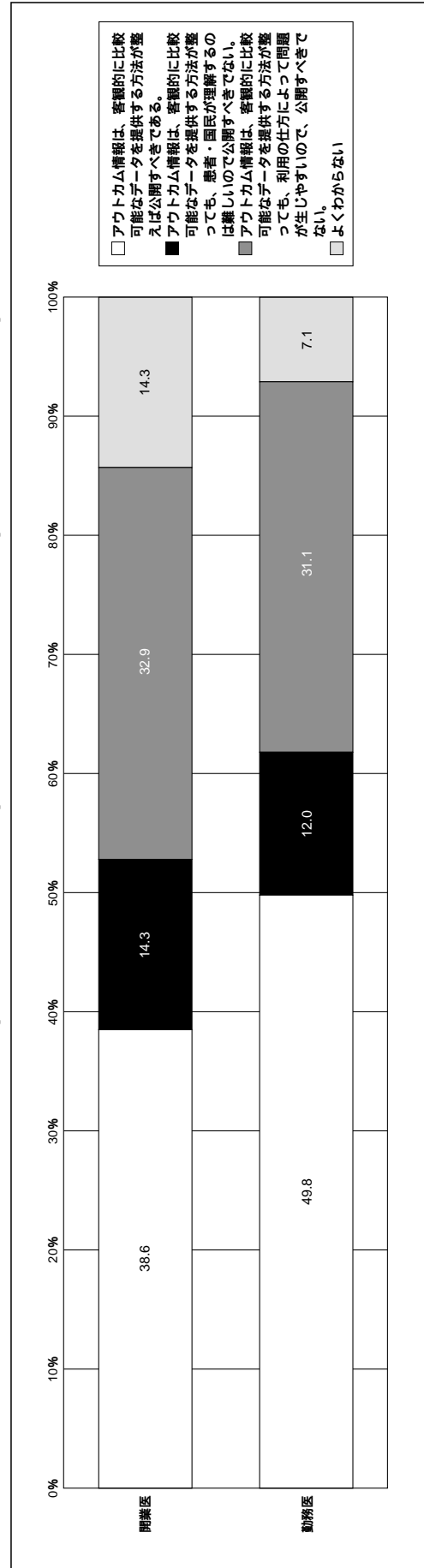
医療機関、疾患別の平均治療費に関する情報



問15 今後、都道府県または市町村の自治体がインターネット上で提供を充実していくべきだと思われる情報をあげてください。(いくつでも選んでも選んでも選んでください)×立場

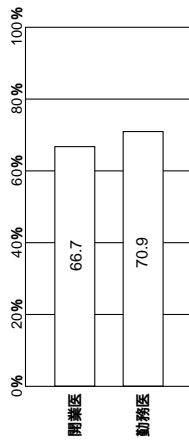


問16 病気の治癒率、患者の死亡率等の結果に関する情報(いわゆるアウトカム情報)の公開についてうかがいます。(一つだけ選んでください)×立場

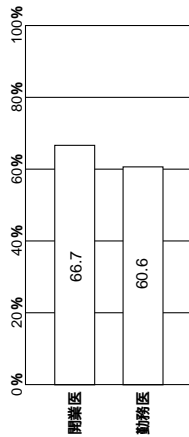


問17 アウトカム情報の公開は何に役立つと思いませんか?重要だと思われるものを二つまであげてください。×立場

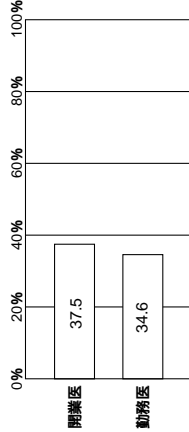
病院や医師の選択に役立つ。



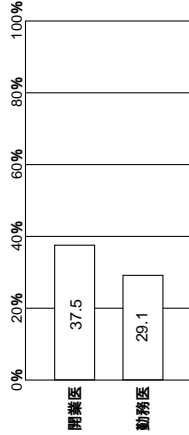
病棟の医療機能の向上に役立つ。



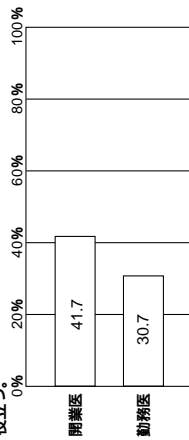
医師の技術の向上に役立つ。



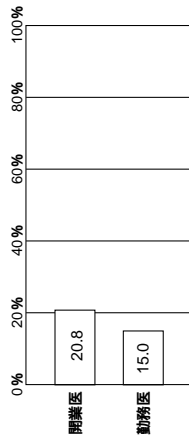
医療ミスや医療事故の防止に役立つ。



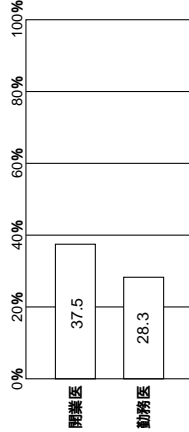
診断・治療法の科学的根拠となる情報のデータベースづくりに役立つ。



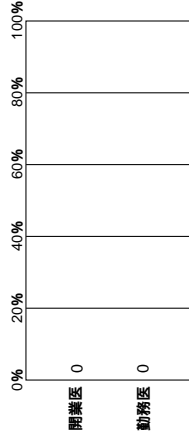
各地域の疾患の傾向や医療政策の効果がわかる。



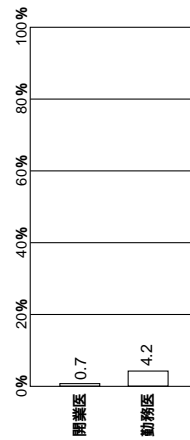
患者・国民の医療への関心を高めるのに役立つ。



よくわからない



その他



問18 病気の治癒率、患者死亡率等のアウトカム情報は、どこが提供するのが一番適当だと思われるか(一つだけ選んでください)×立場

